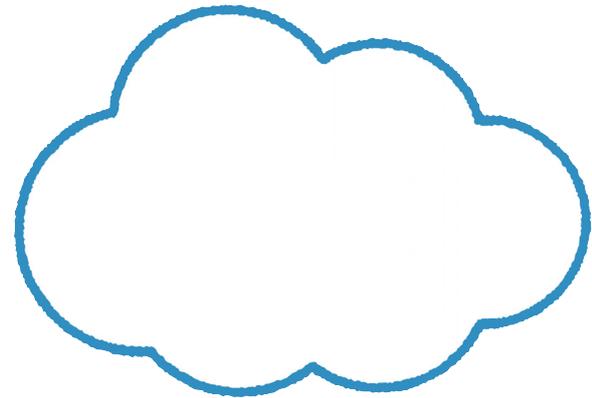


Contents

- 1 編集方針
- 2 PLUSのココロ
- 3 トップメッセージ
- 5 プラスグループのあゆみ
- 6 プラスグループのご案内
- 7 特集
 - ・ 虎ノ門オフィスリニューアル
 - ・ 地域社会の一員として
 - ・ ベトナムにおける
長年のご支援に感謝を込めて
- 13 CSRマネジメント
- 19 環境のためにできること
- 29 お客様のためにできること
- 35 地域社会のためにできること
- 41 お取引先様のためにできること
- 43 働く仲間のためにできること



編集方針

本報告書は、さまざまなステークホルダーの皆様との大切なコミュニケーションツールとして、企業理念に基づく、プラスグループの社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）に対する姿勢や環境および社会に対する取組みを分かりやすくお伝えすることを目的としています。

対象期間

2018年度（2018年1月1日～2018年12月31日）

※ 一部、この期間の前後の活動についても含まれています。

対象範囲

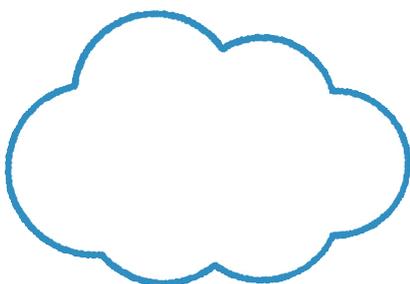
プラス株式会社を中心に、プラスグループ（連結子会社および関連会社）を報告対象としています。

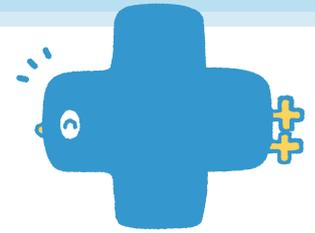
参考ガイドライン

- ・ 国際標準化機構「社会的責任に関する手引（ISO26000：2010）」
- ・ 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- ・ GRI（Global Reporting Initiative）「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版（G4）」

次回発行予定

2020年4月





私たちの理念
Our Philosophy

新しい価値で、新しい満足を。

新しい価値って何だろう？

私たちプラスグループは、社会と共に生きる企業です。お客様の求めるものが常に変化する現代にあっては、普遍的な価値を大切にしながらも、新たな価値を見出していく必要があります。私たちの手で新たな市場を創り出すチャレンジ精神。世の中になく価値に気づき、他人とは異なる視点を持ち、どんな些細な身の回りのものにも目を向けることのできる鋭い感性。そして日々、発明・発見を継続させていく力。この3つの力で、新しい価値を創造していきます。

私たちのビジョン

Our Vision

プラスグループは世界中の人々に
快適で楽しくスマートな
仕事空間と生活文化を実現する
商品・サービスを提供し
社会の発展に寄与します。

私たちの価値観

Our Values

ユニークネスの追求

- ・お客様重視
- ・生活者視点
- ・自由と個の尊重
- ・デザインへのこだわり
- ・挑戦と改革

私たちの行動指針

Our Action

- ・今までにない、他者とは違う、他のやり方でチャレンジする。
- ・お客様のために、あらゆる努力を惜しまない。
- ・社会、家庭の中で暮らす一人として自覚し仕事に取り組む。
- ・仲間を大切にしながら、自由な発想で取り組み、個性を発揮する。
- ・常に、美しいもの、心地よいものを追求し提供し続ける。
- ・情熱を持って挑戦し、仕組みや社会を変えてゆく。

新しい満足って何だろう？

私たちがお客様にご提供するもの。それは、単に商品やサービスだけでなく、お客様に満足をもたらすことです。商品やサービスを通じて、今まで経験したことのない満ち足りた気持ちになっていただく。お客様の満足は、私たちの満足でもあり、社会の満足にも通じるのです。『新しい価値で、新しい満足を。』これを私たちの最大の喜びとして、社会に貢献していくことがプラスグループの使命なのです。

オフィスやパブリック、学校・病院・福祉といった仕事空間を、快適で楽しくスマートに「ワーク」から「プレイ」する空間に変える。作業から創造する空間に変えていく。人が働く空間に新しい価値を生み出したいと、私たちは考えます。また、子供から大人までみんなの日常生活に商品やサービスが溶け込み、より快適に過ごせる習慣となるような、さらには独自の文化にまで発展するようなモノとコトづくりを目指します。

企業理念の達成のためには、一人ひとりが同じ志を持つ必要があります。私たちにとって大切なことは、お客様の満足。そのためには、何よりも「お客様重視」であること。常に「生活者の視点」に立って物事を考えていきます。私たちの財産は、人です。「自由と個を尊重」し、みな「デザインへのこだわり」を持つことで、プラスグループ全体の豊かな創造力へとつながるのです。新しい価値を創造するために、一人ひとりが「挑戦と改革」の意識を持って『ユニークネス』を追求していきます。

もっと新しく。

もっとひたむきに。

もっと正しく。

もっと自分らしく。

もっとクリエイティブに。

もっと生まれ変わる。

もっとPLUS人になる。

トップメッセージ

プラスグループにおけるCSRとは、
企業理念を具現化することです。



2018年は日本列島を地震・豪雨・台風などの大きな自然災害が襲い、各地に大規模な被害をもたらしました。被害に遭われた地域の皆様には、あらためてお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

プラスグループでは、2018年度も、持続可能な社会の実現に向けて、企業理念「新しい価値で、新しい満足。」を具現化し、日々の事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献することに努めてまいりました。

1月にプラス株式会社の第4のカンパニーとしてリテールサポートカンパニーを設立、4月には、セーラー万年筆株式会社と業務・資本提携契約を締結し、さらに7月には新たに大平紙業株式会社がグループに加わるなど、グループとして厚みが増すとともに各事業で新しい取り組みが続きました。

また、本社・虎ノ門オフィスの一部をリニューアルし、プラスらしい未来の働き方の実現に向けて新たなチャレンジをスタートいたしました。



各事業につきまして主なトピックをご紹介します。
文具事業におきましては、主力製品であるファイル・
テープ・金属の分野において、付加価値型製品の発売
をいたしました。なかでも、オフィスの定番品ともい
えるダブルクリップに特異な省力化技術を取り入れた、
かるく開けるクリップ「エアかる」は「第27回日本
文具大賞」機能部門優秀賞や「グッドデザイン・ベス
ト100」※など数多くの賞に選定されるなど、非常に高
い評価を得ることができました。

2019年は製品開発体制を強化し、ゼロイチ発想のプ
ラスらしいユニークな新製品の上市を目指しスピード
感をもって取り組んでまいります。

また、一昨年グループ入りしたアピカ、キョクトウ・
アソシエイツの2社が2019年1月より事業統合し新
たなスタートを切りました。文具事業成長分野におけ
るグループシナジーを追究することも大きなテーマで
す。

コピーボード、ホワイトボード等ミーティングツール
に特化した事業を展開する VISION 事業は、指示棒に
新たなコンセプトを加え、「レーザーポインターが液晶
ディスプレイで使えない」という悩みを解消した、高
機能指示棒『e-bow（イーボウ）』を発売し、ご好評
をいただきました。今後もユニークなミーティングサ
ポートツールの発売を予定しており、お客様に新しい
価値をお届けしてまいります。

続いて、家具事業ですが、リニューアルした本社・虎
ノ門オフィス、ファニチャーカンパニー東京オフィス
や「働き方改革 EXPO」への出展等を通じ、プラスの
提案する Work Style, Work Place をアピールしてま
いりました。本年もより多くのお客様の企業表現の場
としてのオフィスづくりをお手伝いすべく、大手・中
堅企業向け直販体制の確立及び製品開発、輸入商材の
拡充に力を入れていきたいと考えています。

次に、流通事業において、BtoB市場を担うジョインテッ
クスカンパニーは、販売店の皆様と共に新しい価値を
創造する各種施策に取り組んでまいりました。2019
年も引き続きオフィス、文教、介護の3つの市場に向
けたワンストップソリューションサービスのさらなる
充実が重要なテーマと捉えております。また、2018
年1月に設立したリテールサポートカンパニーは、プ
ラスグループ入りした妙高コーポレーション、大平紙
業株式会社と共に文具事務用品 BtoC 市場の新たな店
頭活性化ビジネスモデルの展開を開始し、2019年は
一層本格化してまいります。

最後に、プラスグループの物流・サービス機能を担う
プラス ロジスティクスグループは、現在、私共のグル
ープで最も成長している企業群です。外部クライアント
の新規開拓も順調に進め、新しいビジネスへのチャレ
ンジも計画するなど、社会的注目の高い事業分野での
グループ企業の躍進は、グループ全体への良き刺激、
成長のけん引力となっています。

これからも各事業での新しい価値の追求を続けると共
に、あらゆる機会において、ステークホルダーの皆様
とコミュニケーションを深め、プラスグループ一体と
なり、持続可能な社会の発展に貢献できるよう努めて
まいります。

※ グッドデザイン・ベスト100とは、その年度のグッドデザイン賞
受賞対象の中で、審査委員会により特に高い評価を得た100件です。

2019年4月

プラス株式会社
代表取締役社長

今泉 公二

プラスグループ のあゆみ

プラス株式会社の歩みは 1948 年、東京で事務用品卸を営んでいた今泉商店と鈴木商店が合併して設立した千代田文具株式会社に始まります。1959 年に「プラス株式会社」へ商号変更。この社名には、二つの商店が一緒になった「+」されたということに由来するとともに、世の中にプラスになる会社にしていきたいという想いが込められています。当時「○事務機」や「△文具卸」といった、取扱商品や業種名をつけた会社名が多い中で、それらを使わない会社名にしたことは、将来の業容発展を考慮したものでありました。以来、文具・事務用品卸→ブランド・メーカー→自社工場をもつ本格的メーカーへと着実に転進し、メーカーとして製品開発に意欲的に取り組んでまいりました。一方、業界の商習慣や文具・オフィス家具といった取扱商品の範囲にこだわらない独自の流通サービス（アスクール、ビズネット）を発明するなど、市場創造にも鋭意挑戦し続けてきました。

刻々と変化する経済環境に対し、最適な経営体制を常に追求しながら、プラス株式会社はメーカー、流通の各事業に取り組むとともに、物流や製造・販売などを担う国内外グループ各社のマネジメント会社として、お客様満足の最大化を目指しています。

1948 年

- ・千代田文具株式会社を設立

1959 年

- ・プラス株式会社に商号変更

1960 年

- ・プラススチール工業（株）を設立

1984 年

- ・市場に先駆け、電子黒板「ボードファックス」を開発・発売（1984 年 日経優秀製品・サービス賞 優秀賞を受賞）
- ・パーソナル文具セット「チームデミ」を発売
累計約 650 万個発売のメガヒットとなる
（1985 年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞ほか、多々受賞）

1991 年

- ・オフィス家具工場を核にし、産業複合施設「プラスランド」竣工
製造卸から自社工場を持つ本格的メーカーに

1996 年

- ・ベトナム・ドンナイ省に「ビエンホア工場」竣工

1997 年

- ・アスクール（株）を設立

2000 年

- ・ビズネット（株）を設立
- ・中国広東省に汕頭普樂士儀器有限公司を設立
電子黒板等を製造・販売

2001 年

- ・プラスの主力営業部門と有力卸が一緒になって、
ジョイントテックス（株）を設立（のちにプラス（株）と合併）
- ・プラスランド内に工房を備えた木製家具工場
「アトリエファクトリー」を竣工

2006 年

- ・東京都千代田区永田町に「+PLUS」をオープン

2007 年

- ・個人情報保護スタンプ「ケシボン」を発売
文字で文字を隠す新発想が支持され、初年度 120 万個発売の
ヒットとなる（2008 年日経優秀製品・サービス賞、優秀賞を受賞）
- ・オランダ・ヘルダーランド州に文具・事務用品の欧州物流拠点
を開設

2010 年

- ・ベトナム・ドンナイ省「ヌンチャク工場」を竣工
- ・ドイツ・デュッセルドルフ市に文具・事務用品の欧州販売子会
社を設立

2014 年

- ・プラスベトナム工業「ヌンチャク工場」増床。ハサミの生産を開始

2015 年

- ・「PLUS のココロ」制定

2016 年

- ・CSR 地域貢献『プラス全国一斉清掃活動』を実施

2018 年

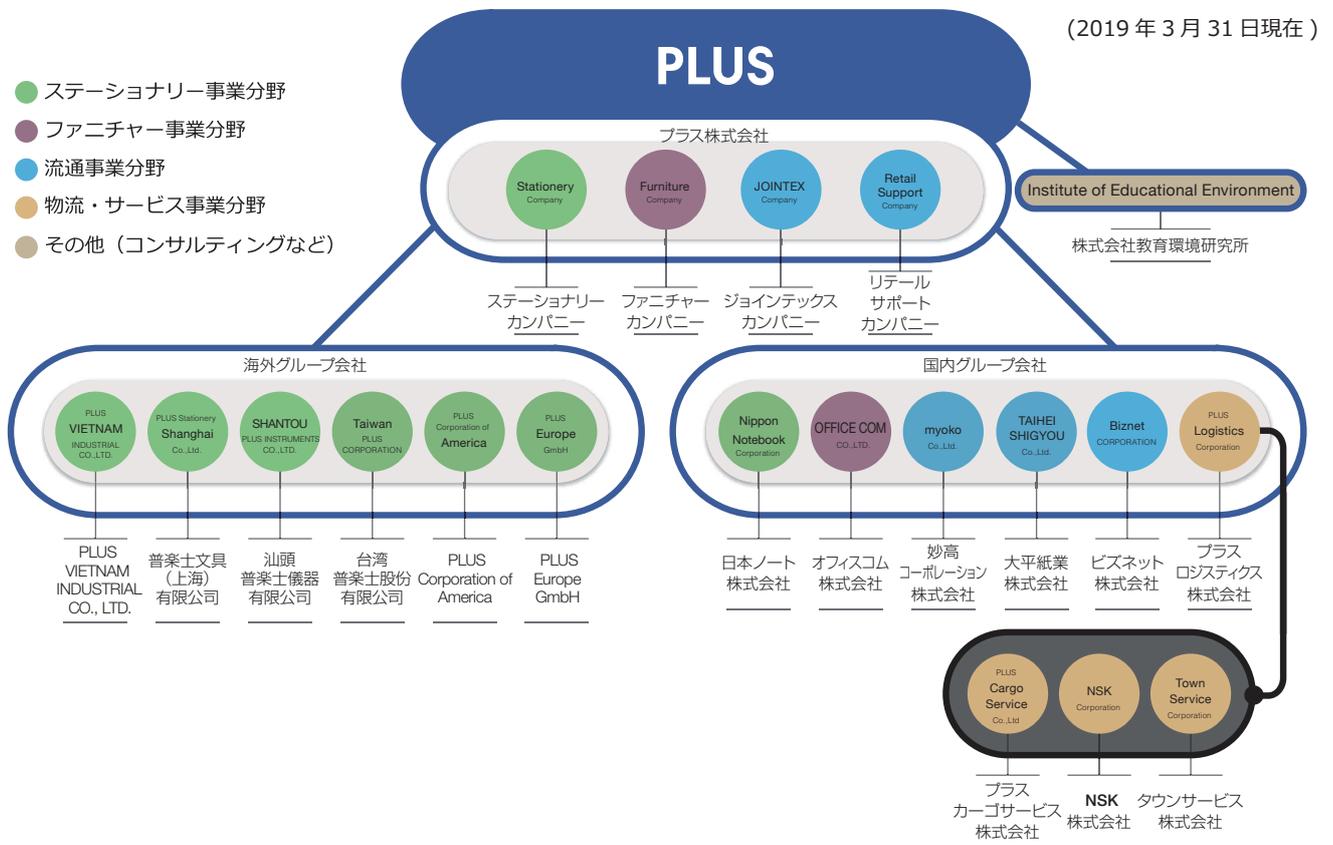
- ・本社・虎ノ門オフィスを増床リニューアル

プラスグループの ご案内

プラス ネットワーク

プラス株式会社およびグループ各社は大きく「ステーショナリー事業分野」、「ファニチャー事業分野」、「流通事業分野」、「物流・サービス事業分野」に分けることができます。各々の企業は、あるときはネットワーク企業として、ある

ときは良きライバル企業として互いに影響しあいながら、“お客様の満足”を“独創的な方法”で実現していくために、社会の変遷やお客様の要望によりさまざまにその姿を変えていくという柔軟な発想で、独自のビジネスを展開しています。



PLUS STYLE SHOWCASE 「+PLUS (プラス・プラス)」

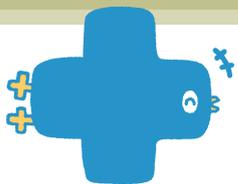
「+PLUS (プラス・プラス)」は、仕事を楽しくスマートにするモノやコトの発信拠点です。オフィス家具や文具、ミーティングツールの展示とともに、各種セミナーやイベントを開催。

最新のPLUSスタイルを通して、お客様とのコミュニケーションを深めています。

+PLUS PLUS STYLE SHOWCASE

〒100-0014
東京都千代田区永田町 2-13-5
赤坂エイトワンビル 1F
TEL : 03-5860-2350
営業時間 : 平日 10:00 ~ 17:00
(祝日・年末年始・夏季休業日除く)





プラス本社・虎ノ門オフィスを 増床リニューアルオープン

～サードプレイス発想の多彩な空間設計で、さまざまな DEAI を創出～

本社・虎ノ門オフィスを 12 階の 1 フロアから 11 階・12 階の 2 フロアに増床し、中階段でつないだオフィス空間へ。2018 年 4 月 23 日にリニューアルオープンしました。



人は出会いながら、はたらく

新オフィスのコンセプトは、「DEAI（出会い）」です。増床リニューアルにあたり、プラスで働く仲間が飛躍し、輝ける場を創りたい、そして未来の働き方を見据え、プラスらしいユニークなオフィスを実現するという視点でコンセプトを策定。経営層へのヒアリング、社員アンケート、社員と社外メンバーを交えたワークショップなどを通じ、これからのオフィスは組織を統制・管理する箱ではなく、人の感性を広

げる場になっていくと考えました。

そこには人だけではなく、モノやコトなど、さまざまな出会いがあり、ビジネスがどんなに変わっても、テクノロジーがどんなに進化しても、人は出会いながら、はたらく。そして「DEAI」から「IDEA」が生まれ、このオフィスからプラスらしい製品・サービスが生まれていきます。

オフィスの中に "DEAI の場" をつくる

「DEAI」は人と人、だけではありません。

1. 五感と出会う、2. 仲間と出会う、3. 志と出会う、4. 健康と出会う、5. 新しい自分と出会う、コンセプトをカタチにするため、この5つの「DEAI」をデザインの軸にしています。

増床した新フロアでは、カフェのようなコンパクトなサイズ感、多彩なレイアウトで従業員数よりも多い座席数を用意し、全員が自席を持ちながら、さまざまなフリー席を利用することで、1か所に縛られず、仕事の内容や気分に合わせて好きな場所へ移動しての仕事が可能にし、働く仲間のさまざまな出会いを誘発しています。



CAFE LOUNGE TALK

11階の中心となっている場所です。空港ラウンジのような落ち着いた空間で、打合せや昼食・休憩スペースとしてよく利用されています。大型モニターを設置。大規模なプレゼンテーションのほか、社内交流会やパブリックビューイングなどのイベントにも活用できます。



STEP

2つのフロアをつなぐ中階段で、さまざまな部署の人たちが出会い、つながる場所です。吹抜け上部の照明がトップライトから差し込む光を表現。上のフロアとのつながりや上昇感を感じられるようにしました。

CHAT SPACE

カフェテーブルや会議スペース、ファミレスブース、5TSUBO CAFE など、雰囲気異なるエリアを配置したオープンな執務スペースは、仕事でも休憩時も、社員同士の活発な交流が生まれる場となっています。



BAR LOUNGE TOWER

日中は執務スペース、就業後はアルコールの出るバーラウンジとして、社内交流会などのイベントにも使用されています。



BOX

小箱のように仕切られた完全個室ブースです。一人ですっきり考えたい時や、仕事に集中したい時に利用されています。

オフィスは、育てていくもの

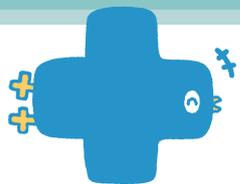
リニューアルを機に、社員で構成するオフィス運営委員会を設置しました。オフィスは、そこで働く社員自身がよりよくしていくべきだと考えています。オフィス運営委員会では、日々、オフィスを使うことで生ま

れる気づきから、フリースペースの活用やコミュニケーションの活性化を促すなど、ソフト面での仕掛けを検討・実施しています。さらに「DEAI」を増やしていくため、これからも働く仲間とともに取り組んでいきます。

社員の家族向けオフィス見学会「ファミリーデー」を開催

本社・虎ノ門オフィスおよびジョインテックスカンパニー赤坂オフィスでは、社員の家族にオフィスを見学しながら、仕事や会社に対して理解を深めてもらうことを目的とした、社員家族向けオフィス見学会「ファミリーデー」を開催しました。2018年10月28日、初めての開催となる虎ノ門オフィスの見学会には、総勢159名の社員・家族が参加し、スタンプラリー形式でリニューアルしたオフィスを見学、社長室での記念撮影や粘土を使ったワークショップ、当社製品の針なしホットキス「ペーパークリンチ」を用いたハロウィンのお面づくりなどを行い、楽しいひと時を過ごしました。また、ジョインテックスカンパニー赤坂オフィスは、2018年8月25日に開催、総勢87名の社員・家族が参加し、スタンプラリー形式のオフィス見学のほか、輪投げやバルーンアートなど、家族で楽しめる各種イベントも行いました。





地域社会の一員として ～地域清掃活動の実施～

2015年3月より、CSR 地域貢献活動の一環として、当社オフィス周辺の清掃活動を行っています。清掃活動を通じて、近隣企業・地域住民の皆様とのコミュニケーションの活性化を図りながら、「社会・環境への貢献」「周辺地域の美化」「社員の CSR への参加意識向上」を目的として取り組んでいます。



プラスクリーンフェス 2018

2016年5月、プラスグループ初の取り組みとして、都内3拠点および全国8支社、総勢160名の社員による「プラス全国一斉清掃活動」を実施しました。

併せて、1993年より続けている「神沢川クリーン計画」も本清掃活動の一環として同日開催し、プラスファニチャーカンパニー役員、前橋工場やPL物流センター、音羽倶楽部などの産業複合施設「PLUS LAND」で働く社員をはじめ、前橋

市役所、地元自治会の皆様など約250名にご参加いただきました。

その後、本活動の規模を拡大して「プラスクリーンフェス」と改名、2018年は国内グループ各社25か所、海外グループ各社6か所（ベトナム、中国2拠点、台湾、ドイツ、アメリカ）計31か所、総勢900名以上の社員が参加し、清掃活動を行いました。



「芝地区クリーンキャンペーン ～路上喫煙ゼロのまち！～」への参加

「芝地区クリーンキャンペーン」は、東京都港区を「安全できれいなまち」にすること、地域に暮らす人がお互いに助け合えるまちをつくることを目的に芝地区生活安全・環境美化活動推進協議会が主催している活動です。

年間を通して港区東部各地（新橋駅・内幸町駅周辺、虎ノ門駅・神谷町駅周辺、浜松町駅・大門駅周辺など）交代で開催され、地域の事業所・町会・自治会・小学校 PTA から総勢 400 名以上の参加者が集まって路上の清掃活動を行っています。プラスは、2015 年度より同キャンペーンに参加しています。

この活動に 3 か年継続して年 2 回以上参加した事業者には、芝地区生活安全・環境美化活動推進協議会より感謝状が贈呈されます。2018 年度はプラスがその対象となり、感謝状と記念品をいただきました。



2018 年度 芝地区クリーンキャンペーン 参加日

6月26日（火） 虎ノ門駅・神谷町駅周辺 10名参加
11月15日（木） 虎ノ門駅・神谷町駅周辺 16名参加

2018 年度 千代田区一斉清掃の日への参加

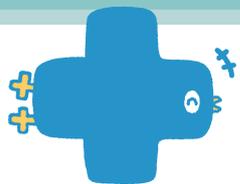
「千代田区一斉清掃の日」は、毎年6月6日、11月6日(当日が土曜・日曜日の場合、翌月曜日)に、千代田区、区民等、事業者及び団体が一体となって行っている、清掃活動や環境美化に関する啓発活動の一環です。毎回、千代田区内の区民・事業者・学校・地域の団体などから8,000人以上が参加しています。

プラスは、2016 年度より今活動へ参加し、2018 年度は市ヶ谷オフィスからファニチャーカンパニーとオフィスコム株式会社、五番町オフィスからビズネット株式会社の社員が参加しています。

2018 年度 千代田区一斉清掃の日 参加日

11月6日（火）
市ヶ谷オフィス～靖国神社にかけての靖国通り沿い 11名参加
五番町オフィス～市ヶ谷駅・四ツ谷駅 13名参加





ベトナムにおける長年のご支援に感謝を込めて ～ベトナム学生を対象とした奨学金制度～

プラスは、2013年より、文具事務用品の基幹製造拠点を置くベトナムの大学生および小学生を対象とした奨学金制度を設立し、2つのプログラムをスタートしています。



1995年、プラスグループは業界に先駆けてベトナムに進出し、全額出資のベトナム現地法人・プラスベトナム工業(PLUS VIETNAM INDUSTRIAL CO., LTD. 以下PVI)を設立しました。以来、PVI社は、文具事務用品の製造拠点として、2,400名を超える現地社員※と共に、ステーショナリー事業の成長を製造面で支えてきました。

このように順調にベトナムでの事業展開を進めることができたのは、ひとえに地元関係各位より寄せられたご理解、ご協力の賜物と考えています。

※ 2018年12月末日現在

折しも本制度を創設した2013年は、「日越友好40周年」の節目の年でした。ベトナムにおける長年のご支援に対する感謝の気持ちを込めて、ベトナムの若い優秀な人材の輩出に少しでもお役に立ちたいとの願いから奨学金制度を創設しました。

本奨学金制度は、留学生の受け入れに熱心に取り組まれている青山学院大学との提携により、青山学院大学のベトナム人留学生を支援する『PLUS・AGUベトナムスカラシップ』と、PVI社を窓口としてベトナム国内の小学生を支援する『PLUS Vietnam Scholarship』の2つのプログラムを実施しています。



『PLUS・AGU ベトナムスカラーシップ』奨学金授与式

2018年度は、ホーチミン市人文社会科学大学から2名、ハノイ国家大学外国語大学から1名、計3名の奨学生を決定し、2019年2月4日(月)、赤坂にある弊社ショーケース「+PLUS」にて奨学金授与式を行い、奨学金証書を授与しました。奨学生3名より、プラスグループに対する感謝の気持ちだけでなく、日本への興味や関心、完璧な日本語はもとより、日本の文化や日本の社会の知識を深く学び、日本の人びとの生活をもっと知りたいなど、さらなる学習への意欲についてお話しいただきました。

奨学生の皆さんが1年間の日本での生活で得た、たくさんの知識や経験をベトナムに持ち帰って今後活かしていただきたいと思えます。

青山学院大学のベトナム人留学生支援 『PLUS・AGU ベトナムスカラーシップ』

対象人数：3名（留学期間：1年間）

対象者：青山学院大学ベトナム人留学生

※ 青山学院大学との学生交換協定締結校「ハノイ国家大学外国語大学」および「ホーチミン市人文社会科学大学」からの留学生

支給金額：3,000,000円（1名あたり1,000,000円支給）

支給開始：2018年9月

グエンバオ ミントゥさん（ホーチミン市人文社会科学大学）

私の夢は経営の部署で働くことです。可能であれば自分の会社を営業することです。奨学金に採用のおかげで私の夢の大きな一歩を近づけることができました。



私が日本に来た目標は二つあります。第一に日本語をもっと上手になりたいです。第二に日本の文化をもっと体験したいです。

数多くの応募者の中から、本奨学金の奨学生として採用していただいたという自覚を持ち、青山学院大学の交換留学生であるという誇りをもって努力してまいります。そして御社のご好意を忘れることなく、ベトナムと日本との友好を発展するために貢献したいと思っています。

(原文のまま、一部抜粋)



『PLUS Vietnam Scholarship』奨学金授与式

2018年度は前年に引き続き、100名の奨学生を決定し、2018年8月3日に Vinh Cuu（ヴィンキュウ）県、10日に Dinh Quan（ディンクアン）県にて奨学金授与式を行いました。ドンナイ省の1年生から5年生までの奨学生に対し、奨学金証書と当社製品の修正テープやファイル等をセットにした文房具ギフトセット、また、現地スタッフの発案で追加されたお菓子の詰め合わせを贈呈しました。

会場では子どもたちの歌や踊りが披露され、子どもたちの代表からお礼の言葉もいただきました。また、本活動は現地の新聞やテレビでも取り上げられました。



ベトナム国内の小学生支援

『PLUS Vietnam Scholarship』

対象人数：2018年度 100名

対象者：ドンナイ省の小学生

※ 毎年、ドンナイ省の2県の選定された県の全小学校へ教育推進協会を通じて、奨学金制度について通知し、PVI社で制定した本制度運用ルールに基づき、授与対象奨学生を選定し、教育推進協会と協力の上で奨学金授与式を開催しています。

支給内容：200万ドン/名（日本円換算：約10,000円）

プラス文房具ギフトセット（修正テープ、ファイル等）、お菓子

支給開始：2018年8月



CSR マネジメント

プラスグループでは、持続可能な社会の実現に向けて、プラスグループの企業理念を具現化し、日々の事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献することがプラスグループのCSRであると考えています。



国際規格「ISO26000」課題とプラスグループCSR活動対照表

社会的責任に関する国際規格「ISO26000」の7つの中核主題と、プラスグループCSR活動において該当する項目の一覧です。

ISO26000 課題	取り組み項目
1. 組織統治	トップメッセージ
	企業理念「PLUSのココロ」
	企業理念とCSRの考え方
	CSR推進体制
	コーポレートガバナンスの考え方
	コーポレートガバナンス体制
	コンプライアンス・リスクマネジメント
2. 人権	人財交流制度・人財育成
	ワーク・ライフ・バランス
3. 労働慣行	安全と健康
	ハラスメントの防止
	人権・人財に関する考え方
4. 環境	環境管理
	地球温暖化対策
	省資源・リサイクル対策
	環境配慮商品
	自然との共生
	法規制の順守と汚染予防
5. 公正な事業慣行	公正な競争・取引
	お取引先様とのコミュニケーション
	調達基本方針
	知的財産基本方針
6. 消費者課題	品質管理
	情報セキュリティ管理
	個人情報保護
	お客様とのコミュニケーション
7. コミュニティへの参画及びコミュニティ発展	社会貢献活動
	地域清掃活動の実施
	企業訪問学習・工場見学・職場体験学習受け入れ
	ベトナム学生を対象とした奨学金制度
	被災地への継続的な支援
	グループ海外拠点での取り組み



企業理念とCSRの考え方

プラスグループにおける CSR とは、企業理念「新しい価値で、新しい満足を。」を具現化することです。

プラスグループ 企業理念と CSR の考え方

プラスグループでは、持続可能な社会の実現に向けて、プラスグループの企業理念を具現化し、日々の事業活動を通じて社会的課題の解決に貢献することがプラスグループの CSR であると考えています。

社会的課題の解決に真摯に取り組み、さまざまなステークホルダーの期待や要望に応え、社会から信頼され、尊敬され、愛される企業を目指し、プラスグループ一体となって CSR 活動を推進しています。

私たちの理念
Our Philosophy

新しい価値で、新しい満足を。

私たちのビジョン
Our Vision

プラスグループは世界中の人々に快適で楽しくスマートな仕事空間と生活文化を実現する商品・サービスを提供し社会の発展に寄与します。

私たちの価値
Our Values

ユニークネスの追求

- ・お客様重視
- ・生活者視点
- ・自由と個の尊重
- ・デザインへのこだわり
- ・挑戦と改革

私たちの行動指針
Our Action

- ・今までにない、他者とは違う、他のやり方でチャレンジする。
- ・お客様のために、あらゆる努力を惜しまない。
- ・社会、家庭の中で暮らす一人として自覚し仕事に取り組む。
- ・仲間を大切にしながら、自由な発想で取り組み、個性を発揮する。
- ・常に、美しいもの、心地よいものを追求し提供し続ける。
- ・情熱を持って挑戦し、仕組みや社会を変えてゆく。



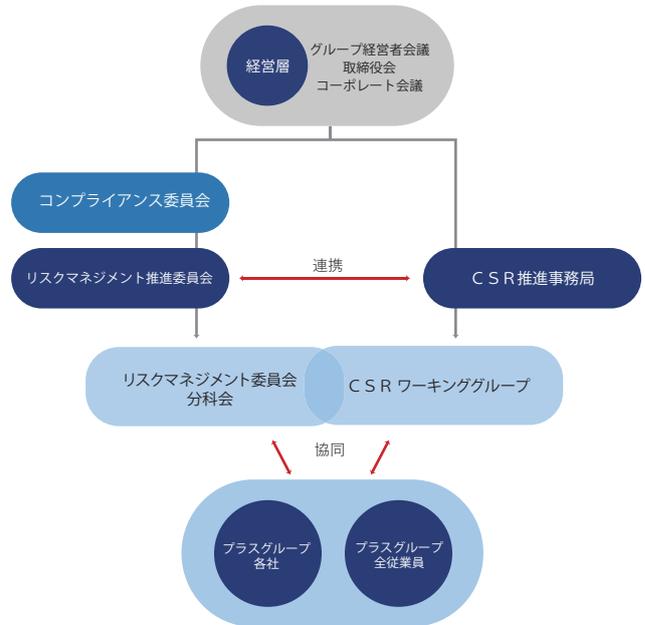
CSR推進体制

プラスグループ CSR 推進体制

プラスグループでは、2014 年度、グループ各社のこれまでの CSR の取り組みを活かしたグループ横断の CSR 推進体制を構築しました。

グループの CSR 活動は、グループ経営者会議・取締役会・コーポレート会議のもと、CSR を統括する組織としてプラス株式会社に CSR 推進事務局を設置し、リスクマネジメント委員会と CSR 推進事務局が連携して課題に取り組み、グループ体となり推進しています。

海外拠点においては、現地社員に対し、テレビ会議システムを用いて、コンプライアンス委員会と CSR 推進事務局協同で、コンプライアンスや CSR に関するセミナーを実施し、プラスグループが CSR に取り組む意義や今後の取り組み課題について情報交換や共有をすることで、グループへの CSR の浸透を図っています。



CSR 社内研修・社員教育の実施

プラスグループでは、CSR に関する教育・研修を通じて、グループ全体への CSR 浸透に努めています。グループで働く仲間一人ひとりが、ステークホルダーの皆様からの私たちに對する期待や求められている役割を理解し、CSR 活動の担い手となって推進していくために、国際規格である ISO26000 などを活用した独自の教材を作成し、年 1 回、e-ラーニング形式による教育を実施しています。

グループ海外拠点には、この e-ラーニングコンテンツを現地の言語に翻訳したものを使用し、テレビ会議システムを用いて直接 CSR セミナーを実施しています。毎年 4 月の新入社員研修では、CSR の基本事項をはじめ、グループが目指す CSR とは何か、グループ CSR 活動の解説などを行い、CSR への理解を深めるための講義を行っています。また、Web グループ報『Creative Companies』内に「CSR ニュース」のページを設け、グループ CSR 活動に関する情報発信を積極的に行っています。これは社内浸透に向けた教育コンテンツとしての役割も果たしています。



2018 年度新入社員研修「CSR 研修」の様子



PLUS のココロひろめ大使プロジェクト

新しいプラスグループ共通理念「新しい価値で、新しい満足。」と共に明文化したビジョン・価値観・行動指針をまとめた「PLUS のココロ」をグループ内に浸透させるため、「PLUS のココロひろめ大使プロジェクト」を発足、2015 年 5 月より活動を開始しました。

本プロジェクトは、グループ各社から任命された社員で構成されています。現在は 2 チーム (Web・制作、イベント・企画) に分かれ、ワークショップの開催やグッズの制作を行っています。また、チームの活動進捗報告や今後の活動に関する議論等を行うための定例会議を「アンバサダーミーティング」と称して月一回開催しています。この会議の議事録や、チームの活動内容はイントラネットに設置したプロジェクトのページ「PLUS のココロひろめ大使館」でグループ内に公開しています。



月一回の定例会議「アンバサダーミーティング」の様子



グループ内浸透のため多言語化された掲示用ポスター (日本語/ベトナム語)



コーポレート・ガバナンス体制

経営の健全性、透明性、コンプライアンスを重視した経営を行い、コーポレート・ガバナンスの強化に向けて努めています。

コーポレート・ガバナンスの考え方

プラス株式会社では、経営の健全性、透明性、コンプライアンスを重視した経営を行い、経営環境の変化に柔軟に対応できる経営体制の確立を重視するとともに、コーポレート・ガバナンスの強化に向けて努めています。

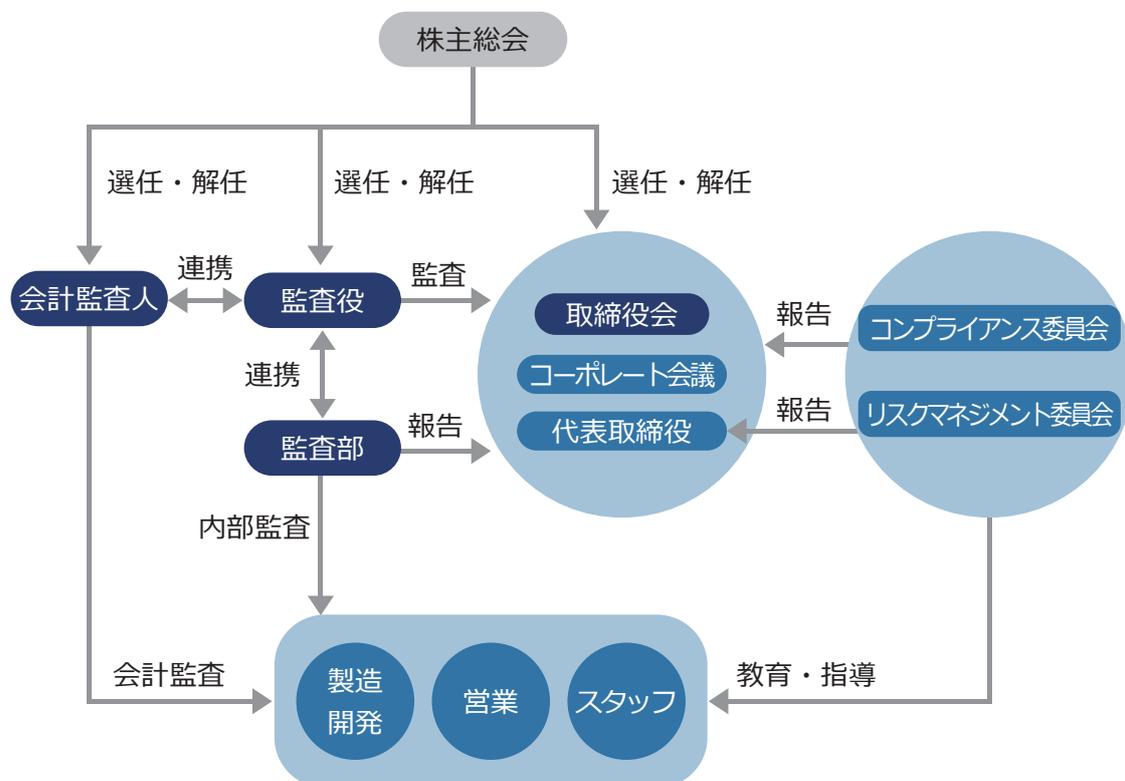
内部統制システム

プラス株式会社は、取締役会及び監査役のほか、監査部（3名）を設置し、監査役と監査部との連携において事業経営監査や内部監査を幅広く実施するとともに、内部統制の実効性が確保できる体制の強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

プラス株式会社の取締役会は、取締役10名で構成され、経営の重要事項の審議や、事業の概況報告等を行っています。また、取締役会の委任を受けた事項、その他業務上の重要な事項に関し協議する機関としてコーポレート会議を設置し、意思決定の迅速化を図るとともに、適宜、経営課題について

活発な議論を行っています。監査役（2名）は、取締役会、適宜コーポレート会議に出席するほか、代表取締役・取締役・子会社社長と定例的に意見交換を行います。また、会計監査人および監査部から監査に関する重要事項の報告を受け、定例的に実地監査を行っています。





コンプライアンス・リスクマネジメント

事業を取り巻くさまざまなコンプライアンスとリスク上の問題に対し、的確な管理と危機発生時の適切な対応等に取り組んでいます。

プラスグループ コンプライアンスポリシー

プラスグループでは、コンプライアンスを徹底するための手引書として、2006年6月、グループで働くすべての人びとが、法律・諸規則等の順守と高い倫理観をもって行動するための基本的事項を具体化した「プラスグループ コンプライアンスポリシー」を制定しました。

順守すべき基本的事項

プラスグループで働くすべての人びとが、倫理的に正しく行動するための順守基準となるべき事項です。記載してある項目のみを順守すれば良いということではなく、本ポリシーの

1. 社会的責任
 - ・ 良き企業市民として社会貢献に努めます。
 - ・ 環境への取り組みを自主的、積極的に行います。
 - ・ 積極的な社会との対話と公正な情報開示で、会社の信頼性・透明性を高めます。
2. 人権の尊重
 - ・ 人格・個性を大切にす、人権尊重の精神に溢れた企業風土を築きます。
3. 地球環境
 - ・ 地球環境の保持、改善を目指し、持続可能な社会の実現を目指します。
4. 法律やルールの順守
 - ・ 法律や規則を順守するだけでなく、社会常識や消費者感覚に反する行動はとりません。
 - ・ 不透明な商慣習や虚礼等を止め、公正・透明・自由な競争を行います。
 - ・ 国際ルールや世界各国の法律を順守すると共に、現地の習慣・文化を尊重し、発展に貢献します。
 - ・ 労働法を順守し、労働疾病の状況を把握し、適切な安全・衛生対策を講じます。

コンプライアンスの定義

プラスグループにおける「コンプライアンス」とは、法律・諸規則を順守し、社会常識や消費者感覚に反することのない、誠実かつ公正な企業活動を実践することを言います。

趣旨に沿って、ここに掲げる項目以外のケースにも対応できるよう、グループ内へ周知徹底を図っています。

5. 独占禁止法・下請法の順守
 - ・ 営業活動および購入先との取引において、独占禁止法を順守し、公平かつ公正な取引を行います。
6. PL法・知的財産権
 - ・ 業務遂行上、特に関わりの深い「製品の安全性」、及び「知的財産権」については、コンプライアンスの重要性を認識します。
7. 適正な情報管理
 - ・ 個人情報や顧客情報等の適正な管理に努めます。
8. 反社会的勢力との対決
 - ・ 市民社会に脅威を与える反社会的勢力とは、断固として対決します。
9. 政治・行政
 - ・ 政治・行政及び地域社会との健全かつ正常な関係を保ちます。
10. 社会貢献
 - ・ 地域社会の一員として積極的に社会貢献活動を行います。

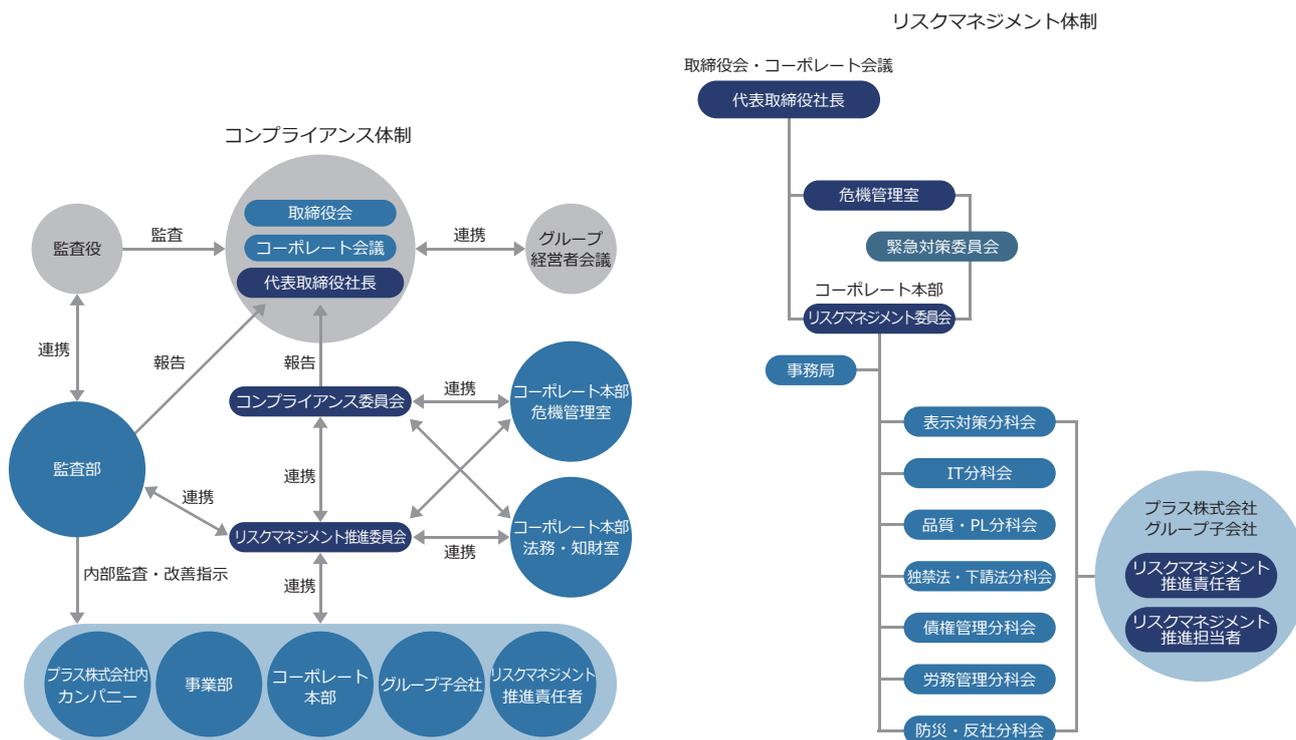
コンプライアンス委員会／リスクマネジメント委員会

プラスグループでは、法律・諸規則等の順守と高い倫理観をもって行動するための基本的事項として「プラスグループ コンプライアンスポリシー」を定め、社内イントラネットに掲載し、プラス株式会社取締役会、代表取締役社長、コンプライアンス委員会、リスクマネジメント委員会、監査部等の各組織協同で、コンプライアンスに取り組んでいます。

また、事業を取り巻くさまざまなリスクに対して、的確な管理・実践を可能にすることを目的とした「リスクマネジメント基本規程」を定め、代表取締役直轄の7分科会からなるリスクマネジメント推進委員会ならびに危機管理室を設置し、(1) 法令違反リスク、(2) 製品・サービスリスク、(3) 与信リスク、(4) 情報リスク、(5) 雇用・人事リスク、(6) 社内不正・

犯罪リスク、(7) 災害・事故リスク、(8) 環境リスク、(9) その他、を対象リスクとして捉えています。

コンプライアンス委員会およびリスクマネジメント委員会では、日常的な事業活動におけるコンプライアンス意識の向上・法令順守を維持するための研修や、年一回、リスク予防・対応・再発防止等を目的とした全従業員対象のe-ラーニングによる教育を実施しています。



環境のために できること

プラスグループが目指す「環境最適」とは、原材料の調達から、製造、営業、配送、回収に至るすべての活動領域において重複行為をなくし、ビジネスを合理的かつシンプルに再構築することです。



環境管理

「プラスグループ環境理念・環境方針」のもと、事業活動による環境影響を把握するとともに、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。

プラスグループ 環境理念・環境方針

プラス株式会社 環境理念

プラス株式会社は、社内外すべての領域において、顧客満足を実現するため、多段階重複行為の排除による「社会最適システム」構築を経営理念として掲げ、社会最適が、21世紀の求める循環型経済社会の持続的発展、即ち「環境最適システム」であると考え、総力をあげてこのシステムの発見・創造に努めます。

商品開発

我々は、顧客満足を実現するため、一製造者として消費者に

対し、環境対応に優れ、利便性を備えた「新たな価値を創造するユニークな商品」開発に努めます。

流通開発

我々は、顧客満足を実現するため、一私企業の枠を超越した社会的視点に立って、「流通社会における機能分担による効率化」を経営の根幹に据え、創造的破壊の精神をもって在来ビジネス構造の再構築に努めます。

環境方針

「環境理念」に基づき、以下の方針に従い行動いたします。

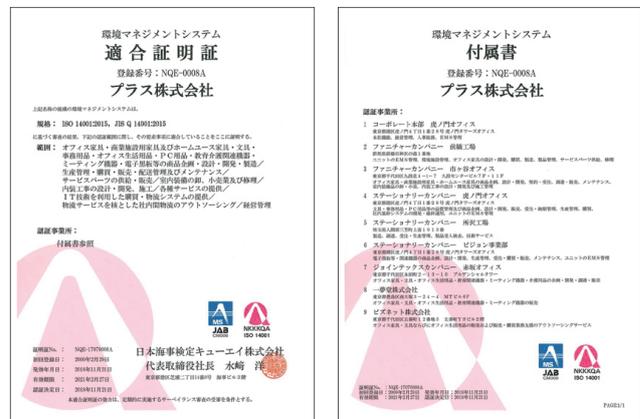
- ・ 事業活動・商品・サービスにおいて、地球環境への影響に配慮し、汚染の予防に努めます。
- ・ 新たな価値を創造するユニークな環境配慮商品・サービスの企画開発
- ・ 事業活動の全領域において、環境保全活動を推進
- ・ 重複行為の排除による環境負荷の低減
- ・ 関連する環境法規制及び、各部門が同意する要求事項を順守します。
- ・ 環境目的・目標を定め、計画を運用し、見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- ・ 事業活動における省エネルギー、省資源、廃棄物の削減・リサイクルに努めます。



ISO14001 認証

2000年2月、プラス株式会社はISO14001認証を取得しましたが、分社化に伴い各カンパニーがそれぞれの事業の特性・独自性を環境保全活動にも生かせるよう、カンパニーごとに環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001個別認証を進めていました。2009年からの事業統合により、環境マネジメントシステムを統合し、2010年9月、ISO14001認証の統合審査を受審、認証を更新しました。

各カンパニーが培ってきた環境に関する情報や知恵、多様な技術を融合・共有することで、プラスグループ全体の環境保全活動の底上げを図り、新たな環境配慮商品・サービスを生み出すことで企業価値の向上を目指しています。現在プラスグループでは、プラス株式会社、ビズネット株式会社、一夢堂株式会社が認証を取得しています。



登録事業者	プラス株式会社
初回登録年月日	2000年2月29日
登録番号	NQE-0008A
登録範囲	オフィス家具・商業施設用家具及びホームユース家具・文具・事務用品・オフィス生活用品・PC用品・教育介護関連機器・ミーティング機器・電子黒板等の商品企画・設計・開発・製造/生産管理・購買・販売・配送管理及びメンテナンス/サービスパーツの供給・販売/室内装備の卸、小売業及び修理/内装工事の設計・開発、施工/各種サービスの提供/IT技術を利用した購買・物流システムの提供/物流サービスを核とした社内間物流のアウトソーシング/経営管理
登録事業所	虎ノ門本社、市ヶ谷オフィス、赤坂オフィス、前橋工場、所沢工場、ビズネット株式会社五番町オフィス、一夢堂株式会社
審査登録機関	日本海事検定キューエイ株式会社

社内環境教育の実施

プラスグループでは、環境に関する基礎知識の習得や環境問題への理解を深めることを目的に環境教育を行っています。全従業員を対象にしたe-ラーニングによる「ECOセミナー」

や集合形式で行う新入社員研修では、環境に関する社会動向、商品・サービスや事業活動を通じた環境活動などをテーマとしています。



地球温暖化対策

低炭素社会の実現のため、オフィス・工場等の省エネルギー活動の推進をはじめとした地球温暖化に対する取り組みを行っています。

前橋工場の省エネルギー化

オフィス家具の生産拠点である前橋工場（群馬県前橋市）で太陽光発電システムを採用し、「プラス前橋工場発電所」を開設。2013年11月より発電した電力は東京電力へ全量売電しています。太陽光発電パネルの発電出力は500kW。前橋工場センターファクトリーの屋根に設置し、2018年度の年間発電量は626,217Kwh、CO₂排出削減量は年間約304t^{※1}となりました。

この事業は2012年7月から開始された「再生可能エネルギー固定価格買取制度^{※2}」を活用したもので、「CO₂を減らす」取り組みの一つです。

前橋工場は1991年の設立当初から「自然と人との共生」をコンセプトに、緑化の推進はもとより、毎年地元住民のみならず、敷地内を流れる神沢川の清掃活動を行うなど、地域の環境美化にも積極的に取り組み、「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」（2007年）など数々の賞を受賞しています。またプラスグループの環境理念である「社会最適システム」＝「環境最適システム」の構築を目指して、環境に配慮

した取り組みを近年強化しており、2011年7月に高効率照明を採用、2013年8月に粉体塗装ラインを設置するなど、環境対応型ファクトリー実現に向けての試みを継続しています。こうした取り組み全体によるCO₂排出削減量は年間365t以上となりました。

※1 環境省ホームページ 平成30年度提出用の東京電力のCO₂排出係数（0.000486）にて算出

※2 経済産業省のもとで2012年7月に開始され、再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）を用いて発電された電気を一定価格で電気事業者が買い取ることを義務付けた制度。
2018年度買取価格：18円/kWh（含消費税）



大型集塵機の排熱利用

プラスランド^{※1}内（群馬県前橋市）にある、アトリエファクトリー^{※2}では、工場内の大型集塵機からの排熱を有効利用しています。



加工の段階で排出される大量の木屑を工場内のダクトで集塵機に集め、「空気」と「木屑」に分別、この「空気」を浄化し、工場内の空調（暖房）に循環利用しています。

※1 プラスランド

群馬県前橋市郊外に建設された産業複合施設。自然環境の中にオフィス家具工場、木製家具工場、物流センターやオフィス、研修施設などを配しています。1991年の竣工以来、オフィス家具の主力製品の製造を行っています。

※2 アトリエファクトリー

試作品を研究したり、お客様からのカスタムオーダーに応えるための工房を備えた木製家具工場です。

トップライト方式の採用

アトリエファクトリーでは、省エネルギー化の一環として、工場天井の要所に大きな採光窓を設置（トップライト方式）しています。トップライト方式は、屋根面の開口部を設けることで、壁面に設置された窓と比較して、約3倍の採光が期

待できます。特に工場のような奥行きが深い建物では、壁面の開口部の明かりは中央部まで届かないため、さらに効果的です。



断熱屋根の採用

アトリエファクトリーの屋根には、空調設備の省エネルギー推進のため、断熱材を敷き詰めています。断熱材を利用することによって、外からの暑さ・寒さの影響を受けにくくなり、暖・冷房機器に使用する電気、ガス、石油などのエネルギー消費の抑制につながっています。



「ライトダウンキャンペーン」への参加

環境省では、2003年から地球温暖化防止のため、ライトアップ施設や家庭の照明を消すよう呼び掛ける「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」を実施しています。実施期間は6月21日から7月7日までの間で、そのうち6月21日(夏至の日)と7月7日(クールアース・デー)両日の夜8時から10時までの2時間は特別実施日として設定されています。

プラスは、2017年度に引き続き、2018年7月6日をクールアース・デーとして※1 ライトダウンに参加、虎ノ門・赤坂・市ヶ谷・五番町オフィスにおいて、20時までの退社を呼びかけ、一斉消灯を実施しました。

本キャンペーンに参加したことにより、電力使用量 221.891kwh※2、CO₂削減量 114.143kg-CO₂の削減効果がありました。

※1 2018年度は7月7日が土曜日のため、7月6日に実施

※2 照明機器のみ算出

「通常22時まで照明を点灯」を20時までに消灯したと仮定し、20時から22時までの2時間分を算出



カーボンフットプリント検証制度認定

2013年8月に商品・サービスごとのカーボンフットプリント(以下、CFP)※1の算定・宣言に関するルールとなる「CFP製品種別基準(CFP-PCR: Carbon Footprint of a Product-Product Category Rule)が変更となったことを機

に、新CFP-PCRに基づき、当社が製品のライフサイクル(原材料調達から生産、流通、使用、廃棄・リサイクル)においてどれくらいCO₂を排出



しているのか、「背幅伸縮ファ

イルセノバス」および「片面無移行デスクマットW型」の2製品で算定、「背幅伸縮ファイルセノバス」は、1冊あたり1.3kg、「片面無移行デスクマットW型」は1枚あたり12kgでした。

この算定結果について、2014年1月、カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム事務局である一般社団法人産業環境管理協会により検証を受け、上記2製品は「CFP

宣言認定製品」と認定されました。

この認定結果を今後の製品開発やサービス提供に役立てるとともに、低炭素社会の実現に向けて二酸化炭素排出量削減に取り組んでいきます。



※1 カーボンフットプリント(CFP)

カーボンフットプリント(CFP)とは、Carbon Footprint of Productsの略称で、商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組みです。LCA(ライフサイクルアセスメント)手法を活用し、環境負荷を定量的に算定します。



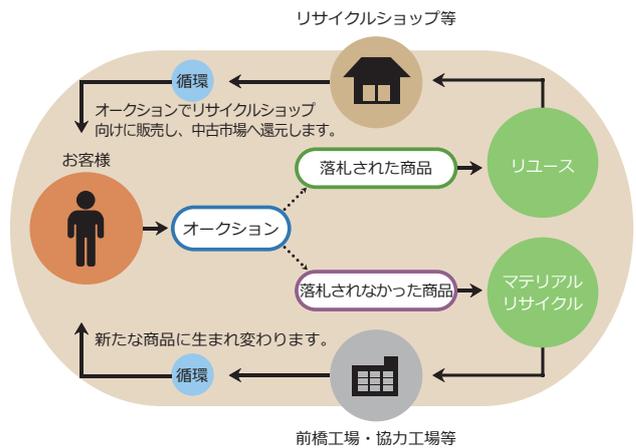
省資源・リサイクル対策

循環型社会の実現に貢献するため、プラスグループが提供する商品・サービスを通じて 3R を積極的に推進しています。

MRS (マテリアル・リバース・システム)

中古オフィス家具の循環型トータル・リサイクル・システム「MRS (マテリアル・リバース・システム)」では、お客様の引越しや什器の買い替え等に伴って発生する、デスク・チェア・キャビネットなどの古いオフィス家具を預かり、リユース可能な商品は、週一回のペースで開催するオークションでリサイクルショップ向けに販売し、不用家具の効率的な市場への還元を図ります。

また、オークションで落札されなかった場合や損傷が激しくリユースできない商品は、業務提携先に委託し、マテリアルリサイクルを中心とした適正処理を行っています。



「マイボトル・マイカップキャンペーン」への参加

「マイボトル・マイカップキャンペーン」は、誰もが簡単に実践できるリデュース、リユースの具体的な取り組みとして、環境省が推奨している普及促進キャンペーンです。

プラスは2017年11月より、本キャンペーンに参加しています。オフィスなどで、自分の水筒、タンブラー、カップなどの飲料容器（マイボトル・マイカップ）を使う取り組みを促進することにより、廃棄物排出量の削減、環境負荷の低減を目指しています。

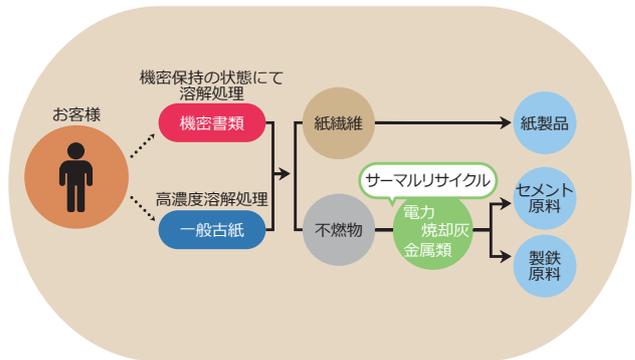


機密文書リサイクルサービス

個人情報保護法の施行などを受けて、情報の厳格管理や漏えい防止策が求められる中、お客様のオフィスで発生する各種機密文書を適切に処理したうえで、100%リサイクルを実現する「機密文書リサイクルサービス」を提供しています。「機密抹消処理専用工場」から「再生工場」に運搬された機密文書は、溶解処理を施し、再生商品にリサイクルします。



機密文書から紙繊維を取り出して紙製品にするほか、不純物はサーマルリサイクルを行い、電力・セメント原料・製鉄原料などに生まれ変わり、リサイクル率 100%を実現しています。



大型集塵機の木屑利用

プラスランド内にあるアトリエファクトリーでは、加工の段階で排出される大量の木屑を工場内のダクトで集塵機に集め、「空気」と「木屑」に分別、この「空気」を浄化し、工場内の空調（暖房）に循環利用しています。

「木屑」は、集塵機にて直径 10cm 程度に固めた後、県内の酪農家に引渡し、牛舎内に敷く藁の代わりとして再利用されます。牛の排泄物が混ざった「木屑」は、堆肥の原料として牧草栽培に再び利用されます。



ベトナム工場の原材料再資源化・省資源化

プラスベトナム工業（PLUS VIETNAM INDUSTRIAL Co., Ltd. /ベトナム社会主義共和国ドンナイ省）は、プラス株式会社ステーショナリー製品の主要製造拠点です。1996年にベトナムのビエンホア工業団地に第一工場を建設、ホッチキス等の文具・事務用品の生産を開始しました。

2009年にヌンチャク工業団地に第二工場を竣工し、2010年5月より、本格稼働しています。

ハサミ、PPホルダー、PPファイルなどの生産を行うヌンチャク工場では、PPホルダーの材料であるポリプロピレンシー

トのロール交換時に発生する無駄なプラスチック樹脂の削減に取り組みました。ロールの全長を800mから1300mに変更することで、ロール交換の回数は1日11回削減され、無駄なプラスチック樹脂の発生量は1日に11kgの減量となっています。

ビエンホア工場では、製品成形時に発生するプラスチック樹脂の端材をロボットアームで粉砕機に投入し、再度、原材料として使用、資源を最大限に有効利用しています。



「BRING PLA-PLUS（ブリング プラプラ）プロジェクト」への参加

「BRING PLA-PLUS プロジェクト」は、環境省の「製品プラスチックの店頭回収・サイクルの実証事業」（事務局 日本環境設計株式会社）に基づいて、消費者・販売店・メーカーが一体となって取り組む、プラスチック製品リサイクルの仕組みを構築する試みです。

第7回目を迎えた本プロジェクトは、ショッピングモール、総合スーパー、専門店、コーヒーストア、ファストフード店、家電量販店など全国約4,000～5,000箇所の回収拠点（回収参加70以上の企業・団体）で実施し、2017年度は2,270拠点で5,000kgのプラスチック回収という実績を上げています。

プラスは、回収参加70以上の企業・団体のうち唯一の文具メーカーとして、2013年度より参画し、ショーケース「+PLUS（プラス・プラス）」（東京都千代田区）にて、2018年2月9日（金）～2018年3月9日（金）まで、使わなくなった文具やおもちゃなどのプラスチック製品をお客様から回収しました。

現在、生活用品などの多くのプラスチック製品は「容器包装リサイクル法」の対象外となっているため、多くの自治体で分別収集されないまま焼却・埋立処分されています。しかし、将来に向けてより高度な循環型社会を形成するには、それら

のプラスチック製品についても可能な限りリサイクルを進めていく必要があります。

プラスは修正テープやファイル等プラスチックを原材料に使う文具を数多く手掛けるメーカーの立場からこの理念に賛同、当事業へ参画しています。

今後はこれまでの活動実績を生かして、循環型社会における文具製品開発を実現すべく、リサイクルされたプラスチックの商品化にも研究・取り組む予定です。





環境配慮商品

お客様と接する機会が一番多い商品の環境対応化を積極的に進めています。

環境配慮商品の企画開発

環境配慮商品紹介

■XF (エクセフ) シリーズ

「XF (エクセフ)」は、オフィスの模様替えや移転時に天板や表面材の追加・交換により、空間の表情を変化させ、オフィスの用途や人員の変化によりパーツの追加や交換をすることで空間の機能を進化させることができます。



長期にわたってビジネスを支えるロングライフ設計（長寿命設計）となっており、省資源や廃棄物削減に貢献します。

変形天板にバリエーションをもつ「XF デスク」の場合、単一素材を積極的に採用し、パーツ同士のジョイントもシンプルにすることで、分別しやすい設計となっています。



■間伐材^{※1} ファイル「間伐材 背幅伸縮フラット セノバス」「間伐材 フラットファイル」「間伐材 個別フォルダー」

環境に配慮した紙製ファイル「間伐材 背幅伸縮フラット セノバス」「間伐材 フラットファイル」「間伐材 個別フォルダー」は、国産の間伐材パルプを原紙に使用（20%）しています。



割安な輸入木材の攻勢に加えて、人手不足などから国内の林業産出額は減少の一途にあり、特に未利用のままの間伐材は、年間約 2,000 万立方メートル発生し、放置されています。紙製ファイルの原紙に間伐材パルプを使用し、間伐材の利用を促進することで、国内林業を守り、日本の森林を健全に維持することに貢献しています。

この商品は「間伐材マーク^{※2} 認定」、「エコマーク^{※3} 認定」、「グリーン購入法適合商品^{※4}」です。

※1 間伐材

樹木および土壌の健全化のため、密集化した木を間引く過程で発生する木材のことです。

※2 間伐材マーク

間伐や間伐材利用の重要性等を PR し、間伐材製品の利用・促進を図ることを目的とし、林野庁推進のもとに制定されたマークです。



※3 エコマーク

さまざまな商品およびサービスの中で、「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと、公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局より認められた商品につけられる、環境ラベルのことです。

※4 グリーン購入法適合商品

平成 13 年 4 月 1 日から施行された「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の第 6 条に定められた、特定調達品目及びその判断基準を満たす商品です。

■コピーボード（電子黒板）「N21 シリーズ」

コピーボードは、ボードマーカーで書き込んだ内容を、シートをスクロールさせながら光学システムで読み取り、印刷やデータ保存ができる会議ツールとして広く活用されています。ネットワーク機能を標準搭載し、オフィス内の複合機や共有プリンタから印刷可能な「N-21 シリーズ」は、従来機種に比べ、省資源・省エネに貢献しています。設計の大幅な見直しにより、本体の厚みを 4 割削減、重量も従来より軽量化を実現しています。^{※5}



さらに光源には低消費電力で定評ある RGB3 色の LED を採用することで、蛍光灯を使用した従来機種に比べ、動作時 / 待機時の消費電力が 40W/5W から 12W/3W となり、年間消費電力を大幅に抑えることができます。^{※6}



※6 測定条件：1日1時間3回の会議を開催。1回あたり2面分のコピーをする。機種はSサイズとした場合

※5 従来機種

M-12SI : 41kg → N-21S : 33.5kg (プリンタ除く)





自然との共生

自然共生社会の実現に向けて、残された自然や多様な生物をその生態環境とともに保全することを考え、取り組んでいます。

産業複合施設「プラスランド」

1990年（平成2年）3月より、群馬県前橋市の郊外、赤城山の南側に建設を開始したプラスランドは、森林、緑地、水辺に囲まれた約46万m²の自然環境の中に、オフィス家具工場を核に、木製家具工場、物流センターやオフィス、研修施設などを配した、自然と人間がバランスよく共生する産業複合施設です。

当初桑畑だった敷地に総計58種類、3万本を超える植樹を進め、現在では高さ10m以上に成長したものも多く、「プラスランドの森」として恵まれた自然環境を形成しています。また、敷地周辺には塀やフェンスを設けず、周辺の豊富な自然に溶け込むよう配慮し、約17.5haの緑地は維持管理を徹底しています。また、開放スペースを設け、地域住民の憩い



の場として提供しています。

プラスランドでは、今後も自然との共生と地域社会への貢献を推進していきます。

プラスランド概要

所在地：群馬県前橋市神沢の森1

敷地面積：463,595m² / 約14万坪

プラスランド内施設

- ① 物流センター：3,000坪
- ② センターファクトリー：5,800坪 金属製家具の生産
- ③ サービスファクトリー：2,800坪 チェアの組立
- ④ 工場事務棟：600坪 オフィス・カフェテリア
- ⑤ アトリエファクトリー：3,800坪 木製家具、パネル、ホワイトボードの生産
- ⑥ 音羽倶楽部：1,400坪 レストラン・宿泊・研修
- ⑦ ヘリポート



神沢川クリーン計画

プラス前橋工場を核とする産業複合施設「プラスランド」（敷地面積：約14万坪）を流れる神沢川（一級河川）周辺の素晴らしい環境を守るため毎年、前橋工場スタッフを中心に地元自治体・自治会の皆様にもご協力をいただき清掃活動を実施しています。

社員が地域の一員として豊かな自然と触れ合える活動として20年以上継続しています。



「プラスランド」のコンセプトである「自然と人との共生」と地域社会への貢献を推進するとともに、清掃作業を通じて

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

2007年（平成19年）、プラス株式会社前橋工場は、工場緑化として最高の栄誉である「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」は、1983年（昭和58年）に設置された「緑化推進連絡会議」により、緑化推進運動の実施について顕著な功績のあった個人や団体に対し、内閣総理大臣の表彰を行うものです。



「ぐんま花と緑の活用事例コンテスト」団体部門 優秀賞受賞



2015年11月、群馬県花き振興地域協議会主催の「ぐんま花と緑の活用事例コンテスト」にて、産業複合施設「プラスランド」が団体部門優秀賞を受賞しました。

「ぐんま花と緑の活用事例コンテスト」とは、花と緑を活用した生活環境の実現に努めている群馬県内の個人や団体を対象にしたコンテストです。

「プラスランド」のコンセプトである「自然と人との共生」と地域社会への貢献に向けて、ありのままの地形や自然の景観を損なうことなく、積極的に工場緑化に取り組んだこと、

森林、緑地、水辺に囲まれた約14万坪の自然環境の中にオフィス家具工場を核として木製家具工場、物流センターやオフィス、研修施設などを配した、自然と人間がバランスよく共生する産業複合施設であることが、「プラスランド」全体の継続的な緑化活動として評価され、同賞を受賞しました。「プラスランド」は今後も、地域住民の方々や音羽倶楽部のお客様の憩いの場として、豊かな自然と触れ合ってもらえるよう、継続的に工場緑化に取り組んでいきます。



フェンスを設けず、周辺の豊富な自然に溶け込むよう配慮しています。



駐車区画では樹木保護のため、前方駐車、アイドリングストップを実施しています。



2015年11月26日、群馬県庁県民ホールにて授賞式が開催されました。



法規制の順守と汚染予防

環境関連法規および当社が同意したその他要求事項を順守し、必要に応じて自主基準を設け、環境汚染の予防に努めています。

工場排水緊急時模擬訓練

プラス株式会社 前橋工場では、年一回、敷地内を流れる神沢川（一級河川）への基準外工場排水の流出を想定した緊急時模擬訓練を実施しています。

工場の生産工程より排出される常時排水および更新時廃液を法

律で定められた基準に則り、適正に処理するため、定期的な監視・測定実施はもちろんのこと、管理手順と実施責任を明確にし、生産排水処理において発生した異常事態・緊急事態に対し、迅速かつ的確な対応を行えるように訓練しています。



左：訓練事前説明
中央：ピオトープのポンプ位置・水位・放流ポンプ停止操作の確認
右：凝集沈殿工程放流水・原水ポンプ停止操作の確認

PCBの保管管理と適正な処理

当社では、コンデンサー9台、蛍光灯の安定器49個のPCB（ポリ塩化ビフェニル）使用電気機器を保有、施錠された専用の収納庫に保管し、厳重に管理していましたが、2015年3月、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に基づき、適正な処理を行いました。



お客様のために できること

プラスグループは、お客様にとって安全で安心できる製品・サービスを提供するために、お客様の声に真摯に耳を傾け、貴重なご意見やご要望ひとつひとつに誠意をもって対応し、常にお客様視点での製品・サービスの提供と改善に努めています。



品質管理

プラスグループは、お客様にとって安全で安心できる商品・サービスを提供するために、各カンパニーの品質管理部および品質保証部を中心に関連部署が連携し、品質向上への取り組みを強化しています。

プラスグループ 品質憲章・品質方針

品質憲章

私たちプラスグループは、安全、安心な製品・サービスをお客様にお届けします。

品質方針

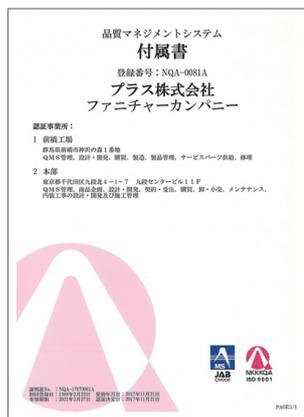
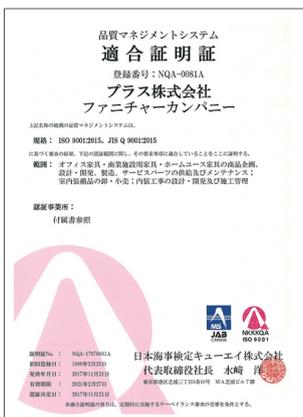
1. 安全で安心な製品・サービスを提供するために、技術の向上に努め、環境保護と品質保証の体制を整備します。
2. 法令を順守し、国際標準の品質管理システムを基本に、定期的な運用検査を実施して、管理精度の向上に努めます。
3. 製品・サービスは、安全な作業環境の下で手順に則り、品質安定に必要なプロセスの管理を励行します。
4. 資材、部材、製品等の調達、仕入れ、輸入、相手先と協力して品質と安全性を確認し、公正な契約に基づいた取引を行います。
5. 製品・サービスの品質に不都合が生じた場合は、法令に従って報告・開示し、適切な事後措置と原因究明を行い、再発を防止します。
6. 品質に起因する報告、クレーム、意見を尊重し、情報の収集を通じてお客様との信頼関係の強化を図ります。

ISO9001 認証

1998年、品質保証体制の強化と顧客満足への更なる向上を目指し、プラスファニチャーカンパニー前橋工場がISO9001認証を取得しました。現在では、プラスファニチャーカンパニーのほか、文具・事務機器の製造拠点であるベトナムのヌンチャク工場、中国の上海工場・汕頭工場がISO9001に基

づく品質マネジメントシステムを構築し、品質向上に取り組んでいます。

※ ISO9001とは、国際標準化機構（ISO）にて1987年に制定された品質マネジメントシステム（QMS：Quality Management System）の国際規格です。



登録事業者	プラス株式会社ファニチャーカンパニー
初回登録年月日	1998年2月23日
登録番号	NQA-0081A
登録範囲	オフィス家具・商業施設用家具・ホームユース家具の商品企画、設計・開発・製造、サービスパーツの供給及びメンテナンス；室内装備品の卸・小売；内装工事の設計・開発及び施工管理
審査登録機関	日本海事検定キューエイ株式会社

製品安全・品質不具合に関する情報

プラスグループでは、製品・サービスの欠陥やその使用・利用にともなう重大事故が発生した場合、法に則って所管官庁に速やかに報告し、被害の重大性や発生頻度などに応じてお客様にできる限り早くお知らせするため、新聞社告、ホーム

ページなどによって直接お客様に事故情報を開示しています。また、当社製品に係る事故について、その情報をお客様等から積極的に収集するとともに、お客様等に対して適切な情報を提供しています。

前橋工場の品質管理

日本百名山の一つである赤城山の雄大な景観に恵まれた前橋市神沢の森。清冽な神沢川の流れる、約 14 万坪の敷地を誇る産業複合施設・プラスランド。ここにオフィス家具



の生産拠点である前橋工場があります。この緑に囲まれた工場から、日本一の生産台数に迫るスチールデスクをはじめ、チェア、パーティション、収納用品、会議デスクなど、さまざまなオフィス家具が送り出されています。

この前橋工場には、長年のコスト削減のノウハウが蓄積されています。部材の共通化を図り、多くの製品に適用するなど、

クオリティを損なうことなく、細部にわたるコストダウンを実践。さらに、一丸となって取り組んでいるのが、従業員の技術力向上です。国や地方自治体公認の技術検定に合格した「匠社員」の優遇もその一環。カスタムオーダーに対応できるラインに、あらゆる加工を一台でできる二連木製天板加工複合機 BIMA を導入し、カスタマイズのレベルを大きく上げるなど、日々、品質と技術の向上に励んでいます。



ベトナム工場の品質管理

ベトナム工場 (PLUS VIETNAM INDUSTRIAL CO., LTD. /ベトナム社会主義共和国ドンナイ省) は、プラス株式会社ステーションナリー製品の主要製造拠点です。

1995 年に従業員わずか 25 名、ホッチキスの製造からスタートとなったベトナム工場は、現在、約 2,400 名の従業員を擁する一大生産拠点へと発展、約 4,000 ものアイテムを製造しています。



生産効率と品質を高めながら、生産実績も年々上昇、2009 年には修正テープが工場における世界一の出荷数量を記録。さらに、PP ホルダー、ケシポンなどで、次なる世界 No.1 製品の生産を目指しています。一方、世界への物流の中心地でもあるベトナム工場は、グローバルシェアを伸ばす上で、プラスの販売戦略上の重要な役割も担っています。

プラスは、拠点工場をアジアに構えている優位点を活かし、アジア市場、欧米市場への一層の拡大を見据えています。

ベトナム工場では、創業開始以来、日本だけでなく世界に向けて、多くの文具・事務用品を製造してきました。その過程でベトナム工場には、不良品を出すことを恥じ、高品質の製品を生み出すことを誇りに思う「品質文化」が深く根付きました。その「品質文化」を支えているのが、従業員一人ひとりの高い技能と品質意識、そして、人材雇用や部材調達、設

備投資など経営における配慮です。

工場全体に浸透したこのような優れた「品質文化」が、日本品質の製品を生み出し、お客様のご満足へとつながっています。ベトナム工場はプラスが次に見据える世界戦略の一翼を担う生産拠点として、さらなる発展を目指します。

工場として重要なテーマである生産性の向上のために、ベトナム工場ではユニークな取り組みをしています。役職に関係なく従業員全員がアイデアを出し合う。必要であれば作業マニュアルも見直す。これまで手作業でしかできなかった工程の自動化に挑戦するなど、改善活動を進めています。



お客様のために できること

このような活動は、生産性はもちろん、品質や安全性の向上をもたらし、技術と経験の蓄積にもつながります。長きにわたる積み重ねが、工場が直面するあらゆる課題を解決するための知恵や力、そして財産になっていきます。ビエンホア工場の品質管理部門は、品質の改善や欠陥品の予防活動が主な仕事です。さらに、材料の受入と製品出荷時に



Made in P.V.I !

文具・事務用品の製造拠点であるベトナム現地法人・プラスベトナム工業では、「自動化専門部門」と「改善自動化チーム」の二つを組織化し、テープ製品・ファイル製品の自動化に向けて、「自由な発想、創意工夫、肯定的に進めること！」をモットーに 391 台の機械を生み出しました。

2015 年 11 月より、プラスベトナム工業で生み出された自動機や半自動機には、自社で企画・開発・製作した「Made in P.V.I.」のシールを貼っています。



上海・汕頭工場の品質管理

中国はベトナムに次ぐ、文具・事務用品の製造拠点です。上海工場ではファイル製品、OA ラベル、修正テープを、汕頭（スワトウ）工場では、コピーボード、ホワイトボード、断裁機、レーザーポインター等を製造しています。



大きく伸びている中国市場への製品供給力を強化するため、2012 年 9 月に上海工場を移転・拡張。文具・事務用品の新たな製造拠点がスタートしました。

ファイル製品、OA ラベルに加え、特にアジアや先進諸国数カ国でシェアトップを占めるなど、世界一に迫る位置にまで成長した、修正テープの生産ラインを新工場に新設。これまでは、製造される製品のほとんどが日本をはじめとする中国国外向け商品でしたが、今後は営業部門とも連携し、修正テープを中心に中国国内の販売比率を高めていく予定です。将来は完全自動化して生産能力を向上させ、中国国内向けオリジナル製品も含め、よりタイムリーに高品質な製品を提供する「地産地消工場」としての機能強化を図っていきます。

2000 年設立の汕頭工場では、コピーボードとその周辺機器を生産していましたが、2012 年よりホワイトボード、2014 年より断裁機、レーザーポインターの生産も開始。

検査を行っており、プラスベトナム工業の品質管理における中枢部門となっています。お客様にご満足いただける製品をお届けしたいという思いが、安定した高品質を生んでいます。



「Made in P.V.I.」のシールを貼ることにより、工場見学に訪れた方へ、高品質の製品を生み出すことを誇りに思うベトナム工業の「品質文化」を知っていただくことは、社員のモチベーションアップにも繋がっています。

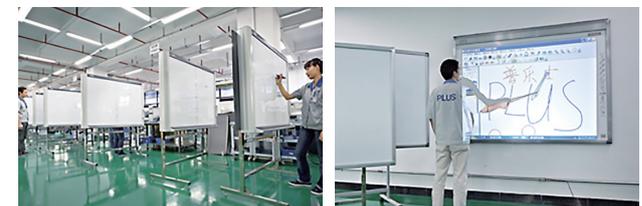


- ① 1人セルライン
- ② トルク自動測定器
- ③ テープ製品カバー圧入機
- ④ ノブ連続圧入機



- 上左：フラットファイル製造ライン
- 上右：ラベル製造ライン
- 左：図面・検査基準書を掲示し、出荷製品に問題がないか厳しい目で検査します

ユニークで高品質な製品を追求し、新たな会議スタイルの提案と共に中国全土に広く浸透させるべく、主要拠点に中国国内のパートナーと協調して地区代理店を設け、中国における流通網を構築しています。上海工場、汕頭工場ともに、ISO9001 認証を取得しています。製品の品質向上のため、従業員への教育を徹底し、従業員一人ひとりが品質を維持するために何をすれば良いのか自ら考え、自分自身を向上させる努力を日々重ねています。



物流の品質管理

プラスの物流子会社であるプラス ロジスティクス 株式会社は、常にお客様の最前線に位置する「物流パートナー」として、「好感度 No.1」をモットーに、高品質のサービス提供をめざすとともに、一般の物流企業にはない内装工事・家具施工といった技術的な対応により、最適物流システムを構築しています。



調達基本方針

プラスグループは、お客様に安全・安心で、環境や社会にも配慮された商品・サービスをお届けするためには、CSR への取り組みをお取引先様とともにサプライチェーン全体に広げる CSR 調達を推進していくことが重要だと考え、お取引先様とともに CSR の推進に取り組んでいくための基本となる「プラスグループ調達基本方針」を制定しました。

プラスグループ調達基本方針

プラスグループは、私たちの理念「新しい価値で、新しい満足を。」に基づき、ユニークネスを追求し、社会やお客様にとって価値のある安全・安心で高品質な商品・サービスをお届けするため、本方針に基づく調達基準をプラスグループ全社で推進するとともに、お取引先様のご支援・ご協力のもと、調達基準に則り、公正な契約に基づいた調達活動を実施します。

1. 公正取引・企業倫理の順守・実践

国際ルールや世界各国の法律、企業倫理に基づいた公平・公正な取引を行います。

2. 人権・労働・安全衛生への配慮

企業活動に関係するすべての人の人権を尊重し、安全衛生が確保された、適切な労働環境を確立します。

3. 品質・安全性の向上

「プラスグループ品質方針」のもと、お客様へ提供する商品・サービスの安全・安心のため、品質向上に努めます。

4. 地球環境の保全

「プラスグループ環境方針」のもと、地球環境の保持、改善を目指し、持続可能な社会の実現を目指します。

5. 情報管理の徹底

調達取引に関わる全ての機密情報および個人情報、厳格・適正に管理、使用します。

6. 社会への貢献

地域社会の一員として、社会貢献への自主的な取り組みを推進します。



情報セキュリティ管理

「プラスグループ情報セキュリティポリシー」及び「情報セキュリティ管理規程」に基づき、情報セキュリティ対策に取り組んでいます。

プラスグループは、お客様から大切な企業・個人情報をお預かりしています。大切な情報を厳重に管理していくため、「プラスグループ情報セキュリティポリシー」及び「情報セキュ

リティ管理規程」を定め、社内に周知するとともに規程に準拠した行動をするよう、年 1 回、e-ラーニング形式による教育を実施しています。

ISO27001 認証

プラスならびにビズネットでは、ISO27001 認証*を取得しています。ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）とも言われるこの認証を取得することは、今日の高度情報化社会の中で、情報セキュリティを高め、お客様情報をお預か

りする企業として重要な取り組みと考えています。今後も情報セキュリティレベルの向上に努めていきます。

* ISO27001 とは、自治体、民間企業などの組織形態を問わない情報セキュリティ対策の管理の仕組みについて規定した規格であり、情報セキュリティ対策の国際標準です。

登録事業者	プラス株式会社
認証基準	ISO / IEC27001:2013 / JIS Q 27001:2014
認証登録番号	IS 91100
登録範囲	プラス及びプラスグループ向けの情報システム開発・運用・保守に関する問合せ対応と、クライアント PC・サーバー等の IT 機器の管理、及び市ヶ谷オフィスのサーバーールームの維持管理 虎ノ門オフィス・市ヶ谷オフィス
登録日	2005 年 4 月 9 日
審査登録機関	BSI グループ ジャパン株式会社

登録事業者	ビズネット株式会社
認証基準	ISO / IEC27001:2013 / JIS Q 27001:2014
認証登録番号	IS 516742
登録範囲	ビズネット株式会社本社における以下の業務 文具事務用品・生活用品に対する調達支援サービスの提供 物流・CRM・IT 基盤を用いた顧客物品配送や顧客ネット販売に対するアウトソースサービスの提供
登録日	2007 年 6 月 1 日
審査登録機関	BSI グループ ジャパン株式会社



個人情報保護

プライバシーマークを取得し、個人情報の保護に努めています。

プライバシーマーク : JIS Q 15001

プラスならびにプラス ロジスティクスでは、個人情報の重要性を認識するとともに、適切な取扱いを行なうため、「個人情報保護方針」を定め、確実な履行に努めています。個人情報保護に関して一定の要件を満たした事業者に対し、財団法人日本情報処理開発協会（JIPDEC）により使用を認められるプライバシーマーク*を取得し、年 1 回、個人情報保護に関

する e-ラーニングを実施することで、個人情報の適切な取扱いを徹底しています。

* プライバシーマーク制度は、日本工業規格「JIS Q 15001 個人情報保護マネジメントシステム—要求事項」に適合して、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等を認定して、その旨を示すプライバシーマークを付与し、事業活動に関してプライバシーマークの使用を認める制度です。

認定事業者名	プラス株式会社
初回認定年月日	2006 年 10 月 24 日
登録番号	第 10530023 号
審査登録機関	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会

認定事業者名	プラス ロジスティクス株式会社
初回認定年月日	2005 年 9 月 20 日
登録番号	第 10410016 号
審査登録機関	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会



お客様とのコミュニケーション

お客様のお問い合わせ・ご提案・ご要望などに迅速、的確、丁寧に真心こめてお応えし、お客様の「お困り事」を解決するよう努めています。

お客様お問合せ窓口

プラスグループでは、WEB またはお電話による「お客様お問合せ窓口」を設置し、お客様からのさまざまなご相談、お問い合わせを承っています。

お客様のお問い合わせ・ご提案・ご要望などに迅速、的確、丁寧に真心こめてお応えし、お客様の「お困り事」を解決するよう努めています。

お客様からのご意見は、「お客様の声」として重要に受け止め、関連部門にフィードバックすることで、商品やサービスの向上につなげています。

グループでは商品・サービス別にお問合せセンターを設置しており、各センターにおいて、対応・サポートの品質向上のための目標を定め、取り組んでいます。

また、各センターの運営状況を互いに知り、参考にすべき良い点や自センターの課題を見つけて改善に繋げ、お客様満足の上を目指して、グループ体となって取り組んでいます。



WEB による商品のお問合せフォーム

PLUS STYLE SHOWCASE 「+PLUS (プラス・プラス)」

「仕事を楽しくスマートに」をコンセプトに、PLUS のオフィス家具、文具、ミーティングツールの新製品から定番品まで、PLUS ブランドを代表するユニークな製品を中心に、海外ブランド製品や Garage 商品を展示。お客様が「見て」「触って」体験して頂ける空間を目指しています。

また、学びや出会いの場として、セミナーやイベントを随時開催しています。お越しいただくすべての方に、より快適に、より気持ちよく、そして楽しく過ごして頂きたい。スタッフ一同、その思いを常に抱きながら、空間づくりをおこなっています。



ぷらぷらマルシェ 開催

2018年5月28日～6月15日、11月12日～12月7日の期間にて、プラスの文具を見て、触って、楽しむことができるイベント「ぷらぷらマルシェ」を弊社ショーケース「+PLUS (プラス・プラス)」にて開催しました。

5月はオリジナルの消しゴムはんこを作るワークショップやスタッフが厳選したプラスのオリジナル文具セットの販売、11月は「デコラッシュ」を使った手帳づくりワークショップやクリスマススワッグづくり、映画鑑賞会などを実施しました。



地域社会の ためにできること

プラスグループは地域社会の一員として、当社製品の寄贈や東日本大震災への支援活動継続など、事業活動を通じて、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。プラスグループが行っている社会貢献活動をご紹介します。



社会貢献活動

プラスグループは地域社会の一員として、文具寄贈や東日本大震災への支援活動継続など、事業活動を通じて、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。プラスグループが行っている社会貢献活動をご紹介します。

プラスクリーンフェス 2018 の実施

2015年3月より、虎ノ門本社周辺の清掃活動をスタートしました。

清掃活動を通じて、近隣企業・地域住民の皆様とのコミュニケーションの活性化を図り、「社会・環境への貢献」「周辺地域の美化」「社員のCSRへの参加意識向上」を目的として、取り組んでいます。また、群馬県前橋市にある「プラスランド」の敷地内を流れる神沢川の清掃活動「神沢川クリーン計画」も、前橋工場スタッフを中心に1993年より毎年実施しており、さらに前橋工場では6月～9月までの間、



月1回、建物内と設備の清掃と併せて、工場の外周清掃を実施しています。

2016年5月、プラスグループの初の取り組みとして、都内3拠点および全国8支社の社員による『プラス全国一斉清掃活動』を実施しました。

全国一斉清掃活動はクリーンフェスに名称を変え2018年は国内グループ各社25か所、海外グループ各社6か所（ベトナム、中国2拠点、台湾、ドイツ、アメリカ）計31か所、総勢900名以上の社員が参加し、清掃活動を行い、併せて「神沢川クリーン計画」も本清掃活動の一環として同日開催し、250名が参加、約450kgのごみを回収しました。

赤坂コミュニティカレッジ

プラスは、2011年10月より、ビジネスパーソン向けの学びと交流の場「赤坂コミュニティカレッジ」をスタートしました。参加者同士が良質な相互交流を図れる場を提供することを目的として、食、美容、健康、芸術、古典芸能、自然科学など幅広いジャンルの第一人者を講師に招き、参加費無料の講座を月1～2回、プラスのショーケース「+PLUS（プラス・プラス）」のセミナールームにて実施しています。

最近では、リピーターとなった方が、ご友人を誘ってお見えになるケースが多くなっています。また、お客様のご要望で2度目、3度目の登壇をする講師も増えています。2018年度は1月の『古酒の魅力』を皮切りに、『エコいけばな』、『人工知能』、『救命手当』、『音楽と落語』など計12講座を開催し、Facebookやメールマガジンを通じて、より多くの方々の参加を募っています。



学校の企業訪問学習・工場見学

全国各地の中学校・高等学校などの修学旅行での企業訪問先として、またキャリア教育の一環としての企業訪問先として当社を選んでいただく機会が増え、2018年度は計21校130名にご来社いただきました。

企業訪問学習では、ショーケース「+PLUS（プラス・プラス）」とジョイントテックスカンパニー赤坂オフィスの見学、会社・事業内容説明を実施しています。

「+PLUS（プラス・プラス）」では文具や家具など、当社商品をご紹介します、自由にお試しいただきました。

赤坂オフィスでは、13Fと12Fの個人の集中ワークをサポートする執務ゾーンや多様な打合せに対応することができる会議室等へご案内しました。



また、オフィス家具を製造する前橋工場の見学には、2018年度は群馬県内の小・中学校・高等学校など5校103名の生徒が参加されました。

2018年度 企業訪問学習実績

企業訪問内容：ショールーム「+PLUS」見学
ジョイントテックスカンパニー赤坂オフィス見学
会社・事業内容説明、質疑応答

新宿区立牛込第三中学校（東京都）	5名
中央区立銀座中学校（東京都）	3名
三鷹市立第七中学校（東京都）	5名
葛飾区立新小岩中学校（東京都）	5名
気仙沼市立大谷中学校（宮城県）	4名
仙台市立柳生中学校（宮城県）	5名
福井市立社中学校（福井県）	5名
小山町立小山中学校（静岡県）	3名
蒲郡市立形原中学校（愛知県）	2名
名古屋市立守山中学校（愛知県）	19名
名古屋女子大学中学校（愛知県）	5名
北上市立北上中学校（岩手県）	5名
大河原町立大河原中学校（宮城県）	5名
八王子市立第七中学校（東京都）	6名
町田市立木曽中学校（東京都）	6名
群馬県立館林女子高等学校（群馬県）	17名
多摩市立多摩中学校（東京都）	6名
千葉県立国府台高等学校（千葉県）	8名
※虎ノ門オフィスにて実施	
青森県立三本木高校附属中学校（青森県）	6名
中野区立南中野中学校（東京都）	5名
宮崎県立日向高等学校（宮崎県）	5名
※来社日付順	

中学生教育プログラム 職場体験学習

群馬県では、中学生教育プログラムの一環として、本人が希望する職種「仕事」を2日間体験することができる「職場体験学習」があります。職場体験学習先は県内製造業をはじめ、保育園や図書館、病院、飲食店、コンビニなどです。プラスファニチャーカンパニー前橋工場では、毎年2校ずつ、前橋市立の中学校の生徒を受け入れ、前橋工場の見学や、工場スタッフと同じ作業着を身に着け、実際にデスクの添付品の作成、フォールディングテーブルの組立、椅子の包装等を体験していただいています。

2018年度も2つの中学校から生徒を受け入れ、体験学習後に生徒の皆さんから、「普段何気なく使っている文房具やイス、机などがたくさんの方の手によって心を込めて作られて

いることを知ることができました。」「働くことの大変さを学びました。」「自己管理の大切さを知ることができました。」といった感想を綴ったお手紙をいただきました。

2018年度 職場体験学習内容

- 前橋市立宮城中学校
期間：2018年6月18日(月)～6月20日(水)
人数：2年生3名
- 前橋市立粕川中学校
期間：2018年9月4日(火)～6日(木)
人数：2年生4名
- 体験内容
デスクの添付品作成、フォールディングテーブルの組立、椅子の包装



東日本大震災への復興支援

東日本大震災被災地では、今もなお、さまざまな課題を抱え、その一つ一つと向き合いながら復興への努力が続いています。

陸前高田市の教育環境支援

「陸前高田市 ×PLUS= 一本松プロジェクト」

プラスジョインテックスカンパニーは、岩手県陸前高田市と協議し、同市の教育環境整備を支援するため、2014年4月1日より「一本松プロジェクト」をスタートしました。

「一本松プロジェクト」はジョインテックス内で教育・福祉・什器関連事業に取り組む教育・介護福祉事業部が中心となり、教育事業で販売している教材の対象商品「ブックトラック※1」「ハンブコ※2」他対象商品売上の一部と、ジョインテックスが運営する文教市場向けカタログ通販「スマートスクール※3」のWEBポイント交換メニュー分を震災被害の大きい同市に寄付し、教育施設や教育用品の整備に役立てていただくことを目的としています。

【2017年度 寄付額】

期間：2017年4月1日～2018年3月31日

寄付額：146,801円

内訳：教材事業 対象商品売上の1% 92,801円

スマートスクール事業 Web 交換メニュー 54,000円

【2018年度 寄付額】

期間：2018年4月1日～2019年3月31日

寄付額：29,884円※

内訳：教材事業 対象商品売上の1% 29,884円

※ 2018年4月1日～9月30日までの寄付額

2018年10月1日～2019年3月31日分は、2019年4月に寄付する予定です。

「みちのく復興支援室」の取り組み

プラスジョインテックスカンパニーでは、2011年6月より、被災地域の一刻も早い復興に向けた支援を目的として、東北支社内に「みちのく復興支援室」を発足させ、震災直後から岩手県・福島県・宮城県の販売店様をはじめ、岩手県・福島県・宮城県のスマートオフィス・スマートスクールユーザーの保育園・小学校・市民センター等の被災地支援を行ってきました。

宮城県亘理郡山元町のNPO法人GRAが2012年2月からスタートした、地元中学校と連携し公式の授業として展開されているキャリア教育プログラム「こころざし教育」の授業で使用するノート・ふせん等の文房具や教材、運営資金の一部寄付などの支援や、地元自治体からのご依頼に応じて、防災の基本や防災用品の使い方の実演など、防災対策に関するセミナーを逐次開催してきました。

プラスグループは、今後も被災地へ、継続的な支援を行っていきます。

陸前高田市 ×PLUS 「一本松プロジェクト」

陸前高田市と協議し、同市の復興支援の象徴する“一本松”をプロジェクトのネーミングに採用しました。「奇跡の一本松保存プロジェクト」とは異なる、オリジナルプロジェクトです。



※1 ブックトラック

図書、辞書等を収納し、自由に移動をさせることができる備品です。



※2 ハンブコ

紙を両端から挟むガイド機能のWゲージを搭載し、誰でも簡単に紙を半分に分けるスライドカッター（手動裁断機）です。



※3 スマートスクール

1997年にスタートした小中学校・幼稚園・保育園向けのカatalog通販に専任営業サポートが付いたデリバリーサービスです。全国の教材販売店や文具事務用品店等と協働することによって、お客様が使用する教材、行事用品、文具・事務用品、生活雑貨をFAXまたはインターネットでのご注文の翌日に直接お届けしています。

(一部翌々日以降のお届け)

現在95%以上の小中学校でご登録いただいています。

2014年以降は、仙台市・陸前高田市・郡山市エリアでの「学校づくりセミナー」の開催や、陸前高田市より要請を受け、陸前高田市「まち・ひと・しごと総合戦略策定会議」に委員として参画するなど、東北沿岸部の復興支援を専門に取り組む部門として、現地の販売店様支援やボランティア活動に参加しながら、お客様の防犯用品の購入や防災も考慮したオフィスづくりのお手伝いを続けています。



「こころざし教育」の様子

平成 30 年 7 月豪雨被災地への支援活動

2018 年 7 月上旬に西日本で発生した集中豪雨により、被害を受けられた皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。プラスグループは、被災された方々への支援として、子供たちの学習や業務で役立てていただくため、ジョイントテックスカンパニー中四国支社が中心となり、グループ各社と連携して、広島県呉市・岡山県倉敷市の教育委員会や学校などへ、9月に職員室で使用するデスクとチェアのセットを寄贈し、12月にノートや消しゴム、おりがみなどの文具をお贈りしました。

プラスグループは、これからも被災地の皆さまの温かく穏やかな生活、心からの笑顔が一日でも早く戻りますよう心から願うとともに、グループとして出来る限りのご支援に取り組んでいきます。



寄贈先よりお礼状をいただきました。

寄贈物資

- ・デスク・チェア
- ・各種ノート 1,680 冊
- ・直定規 3,000 本
- ・消しゴム 3,600 個
- ・消しゴム付鉛筆 12 本入 750 箱
- ・おりがみ 30 枚入 1,000 冊
- ・アピカ 5 mm 方眼ノート 3,000 冊



文具寄贈先

広島県呉市

- ・呉市教育委員会
- ・呉市安浦中央保育所
- ・音戸小学校
- ・倉橋中学校
- ・三坂地小学校
- ・天応中学校
- ・明德小学校
- ・安浦小学校
- ・安浦中学校
- ・吉浦中学校
- ・横路小学校
- ・横路中学校

岡山県倉敷市

- ・倉敷市教育委員会
- ※ 倉敷市は教育委員会より被災された学校等へ物資をお贈りいただきました。

大規模災害時における物品等調達に関する協定

2015 年 10 月、ジョイントテックスカンパニー中部支社は、国土交通省中部地方整備局と「大規模災害時における物品等調達に関する協定書」を締結しました。

「大規模災害時における物品等調達に関する協定書」とは、地震・大雨等による自然災害などの大規模災害発生時、国土交通省中部地方整備局が防災官署として、被害の拡大防止と被災施設の早期復旧のための活動に必要な物品等の調達を目的とし、災害対応のため緊急的に必要となる物品等がある時、中部支社に対して協力を求めることができ、中部支社は協力を求められた場合、可能な範囲でこれに応ずるというものです。

中部支社は対応可能物品として、コピーペーパー、アルカリ電池、油性マーカー、ごみ袋、懐中電灯など 9 品目を 2015 年 1 月に愛知県大府市に開設した物流拠点「ジョイントテック

ス中部センター」に保管しており、本協定締結に至った背景には、この中部センターの存在が大きく、中部地方整備局により同センターの安定した物流インフラが高く評価されたものと思われます。

また、2017 年 3 月には、東京都杉並区とジョイントテックスカンパニーが、「災害時等における緊急用資機材等の提供に関する協定」を締結しました。

杉並区では、大規模災害等で被災した場合、全国から届けられる支援物資を迅速かつ的確に被災者に届ける体制を強化するため、複数の事業者と連携した物流体制を構築し、ジョイントテックスカンパニーは、大規模災害時の緊急用資機材等として、テントや物資拠点用バルーンテント、避難所運営資機材の提供に協力します。

グループ海外拠点での取り組み

ベトナム学生対象の奨学金制度創設

プラスは、1995年、業界に先駆けてベトナムに進出し、全額出資のベトナム現地法人・プラスベトナム工業（PLUS VIETNAM INDUSTRIAL CO., LTD.：以下 PVI 社）を設立しました。

現在では2,000名を超える現地社員と共に、成長するステーションリー事業を製造面で支えています。

これまで順調にベトナムでの事業展開を進めることができたのは、ひとえに地元関係各位より寄せられたご理解、ご協力の賜物と考えています。

このような長年のご支援に対する感謝をこめて、ベトナムの若い優秀な人材の輩出に少しでもお役に立ちたいとの願いから、奨学金制度を創設しました。

カンボジアの子どもたちへノート寄贈

2018年8月、同志社大学の学生団体 CHAD*より「カンボジアの子どもたちに文房具を寄贈したい」というご相談をいただき、プラスのノート500冊寄贈しました。

ノートは、団体メンバーのみなさんが現地の王立ブノンベン大学日本語学科の学生とともに、6日間にわたり Kansath（カンサス）小学校と PreyChurk（プライチュルク）小学校を訪問、直接子どもたちに手渡ししています。

* 学生団体 CHAD とは、2014年に創設、年に2回、カンボジアの小学校で運動会を実施する活動を中心に、カンボジアと日本の子どもたちの絵手紙交換、劇の上演や日本語授業など、様々な支援活動を実施している、同志社大学登録の学生国際協力団体です。



ベトナム工場見学

文具・事務用品の製造拠点であるベトナム工場では、日本から修学旅行で訪れた学校の工場見学を受け入れています。2018年度は高等学校4校、大学1校、計115名にご来社いただき、当社商品の製造工程における環境配慮への取り組みや、お客様に安全・安心な商品をお届けするためのこだわり、工場で働く社員の姿などを見学してもらい、モノづくりの現場で商品を通じた取り組みを知っていただきました。



2018年度 ベトナム工場 ビエンホア工場見学実績

- (1) 神奈川大学附属中・高等学校
期間：2018年3月29日(木)
人数：生徒28名、教員3名
- (2) 埼玉県立浦和第一女子高等学校
期間：2018年8月6日(月)
人数：生徒13名、教員2名
- (3) 名城大学 都市情報学部
期間：2018年8月7日(火)
人数：生徒15名、教員1名
- (4) 東京都立千早高等学校
期間：2018年10月31日(水)
人数：生徒10名、教員1名
- (5) 長崎県立佐世保西高等学校
期間：2018年12月11日(火)
人数：生徒40名、教員2名

東日本大震災被災地への復興支援

PLUS Corporation of America (アメリカ オレゴン州/以下 PCA) は、2017年よりオレゴン日本商工会主催「東日本大震災被災地復興支援 ファンドレイジング・バザー」へ、当社商品を寄付しています。

2018年度も継続して参加し、バザーの収益は、福島県が運営する「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に寄付されました。

寄付商品:デコラッシュ、デコローラー、テープのり、修正テープ、ハサミ 他



外来種駆除活動

2018年5月24日、PLUS Corporation of America (アメリカ オレゴン州/以下 PCA) は、プラスグループが行っている清掃活動「クリーンフェス 2018」の一環として、社員9名と社員の家族も参加し、公園内に生育している在来植物の生育抑圧などの悪影響を及ぼすとされている外来植物の駆除を行いました。

今回、PCAが外来植物の駆除を行った「Fir Grove Park」(オレゴン州ビーバートン) は、広さが5エーカー(約6,121坪)の公園で、公園の西側は森林となっており、セイヨウヤブイチゴ(英名:Armenian Blackberry)や、セイヨウキツタ(英名:English Ivy)、セイヨウヒイラギ(英名:English Holly)などの外来植物が生育しています。

これらの植物の中でも特にセイヨウキツタ(英名:English Ivy)は、アメリカの多くの地域で侵入種として指定され、オレゴン州では販売または輸入が禁止されています。

今回駆除した外来植物

セイヨウヤブイチゴ(英名:Armenian Blackberry)
北アメリカ原産、バラ科イチゴ属の半常緑低木

セイヨウキツタ(英名:English Ivy)
ヨーロッパや西アジアなどの地域で自生しているウコギ科の被子植物

セイヨウヒイラギ(英名:English Holly)
ヨーロッパ西部・南部、アフリカ北西部、アジア南西部原産
モチノキ科モチノキ属の常緑小高木



お取引先様の ためにできること

プラスグループとお取引先様との関係は、お互いに対等な立場であり、協働のパートナーです。お取引先様との相互理解を深め、信頼関係の構築に努めるとともに、より良いパートナーシップによる公平・公正な取引を徹底しています。



知的財産基本方針

プラスグループは、知的財産権は重要な会社財産であることを認識し、その権利の保全に努めるとともに、他者の知的財産権を尊重し、侵害しないように努めていくため、基本となる考えである「プラスグループ知的財産基本方針」を制定しました。

プラスグループ知的財産基本方針

プラスグループは、「新しい価値で、新しい満足を。」との理念のもと、ユニークネスを追求し、新たな商品・サービスの提供を通じて、社会の発展に寄与します。

そして、新たな商品・サービスの提供と特許・意匠・商標などの知的財産とは切っても切り離せない関係にあることを理解し、知的財産権を管理・活用するとともに、ユニークであろうとするプラスの責任として、国際社会における他者のユニークネス、知的財産は最大限尊重します。

1. 知的財産権の管理・活用

自社の知的財産権は、適切な取得・管理を行い、商品の販売、事業の展開において積極的に活用します。
また、模倣品等の、自社の知的財産権を侵害する他者に対しては毅然とした態度で臨みます。

2. 知的財産の尊重

新商品の開発、新サービスの展開等の際には、必要な調査を行い、他者の知的財産権は侵害しません。

3. 教育

知的財産に対する理解向上のため、社員に対する継続的な教育活動を行います。

4. 推進体制

プラス全体の知的財産権の適切な取得・管理・活用のため、知的財産部門と関係部門が連携して対応を行います。



公正な競争・取引

プラスグループでは、公正な取引を実現するため、独占禁止法、下請法等の順守・徹底に取り組んでいます。法律・諸規則等の順守と高い倫理観をもって行動するための基本的事項として「プラスグループ コンプライアンスポリシー」を定め、さらにその内容を具体化、実践するために「独占禁止法順守に関する行動指針」や「独占禁止法順守マニュアル」を策定し、社内イントラネットに掲載、リスクマネジメント委員会の一部として、独禁法・下請法分科会を組織し、行動指針や順守マニュアルの周知徹底を図っています。

また、公正な取引を実現するための社内教育として、「独占

禁止法順守マニュアル」のほか、必要な時に誰もがすぐに確認出来るよう、社内質問事例集や公正取引委員会の質問コーナー等へのリンクを社内イントラネットに掲載しています。独占禁止法・下請法に限らず、製造物責任法や景品表示法等についても学習するため、プラスグループ全体を対象としたe-ラーニング「コンプライアンスセミナー」を継続的に実施し、各種法律に関する勉強会等を適宜開催しています。さらに、社内および外部に内部通報窓口を設定し、万が一法令に違反するような事態が生じた場合には、早期に発見、是正することができる体制を整えています。



お取引先様とのコミュニケーション

お取引先様と、品質向上や環境保全等について共通の認識を持ち、協調して取り組んでいくことが必要であると考えています。

お取引様との学びの場

プラスグループとお取引先様との関係は、お互いに対等な立場であり、協働のパートナーです。製品・サービスが生み出される事業プロセスにおいて重要な役割を担っているお取引先様と、品質向上や環境保全について共通の認識を持ち、協調して取り組んでいくことが必要であると考えています。そのため、定期的に外部講師を招き、仕入先様・当社社員を対象とした製品安全に関する勉強会を開催、PLUS ブランド製品の安全安心の構築・維持のために取り組んでいます。

また、2011年より、社員のスキルアップはもちろんのこと、お客様やお取引先様からの信頼をさらに深めていくため、ジョイントテックスカンパニーの社員による「建築施工管理技士」の資格取得チャレンジを開始しました。社内の有資格者が順調に増えていき、学習のノウハウも蓄積されてきた2014年より、そのノウハウを販売店様にもお伝えするため、「2級建築施工管理技士取得サポートプログラム」通称『セコカン塾』をスタートしました。

『セコカン塾』で使用するテキストは、全てジョイントテックスカンパニーのオリジナルとなっており、合格者へのフォ

ローとして、前橋工場見学や事例紹介、赤坂オフィス見学などの研修を行っています。『セコカン塾』は、ニューミドルマン※メニューのひとつとして、販売店様より好評いただいております。

※ New Middleman（ニューミドルマン）とは
ジョイントテックスが目指す、新しい価値と機能を持つ中間流通業



お取引先様と取り組む「配送・組み立て」の品質向上

プラスの物流子会社であるプラス ロジスティクスは、家具や什器をご指定の場所まで配送するだけでなく、事前の組み立てや配送先での組み立てにも対応しています。

配送や組み立ての品質向上のため、定期的にパートナー企業である配送業者様、荷主様とともにエリアごとに品質会議を開催し、品質向上への課題や品質改善状況の報告、仕分け・配送・組み立てミス防止に向けた取り組み事例の共有等を行っています。また、特に品質向上に大きく貢献していただいたパートナー企業様を優秀パートナーとして表彰させていただいています。

働く仲間の ためにできること

プラスグループでは、性別・年齢・国籍などを問わず、すべての人びとがいいききと働き、能力が最大限発揮できる職場の実現を目指し、さまざまな取り組みを行っています。



人権に関する基本的な考え方

プラスグループは、人格・個性を大切に、人権尊重の精神に溢れた企業風土を築いていくため、以下に取り組んでいます。

1. 私たちは、いかなる理由（性別・国籍・人種・民族・宗教・障害の有無等）をもってしても、差別・ハラスメント（嫌がらせ）等を自らが行わないこと、そして他人がすることも許さないという意識を強く持ちます。また、人権尊重の基本的な考え方は、互いに敬意を払い、「相手の立場に立って考え、行動する」ということです。私たちは、このことを常に意識して行動します。

2. 私たちは、児童労働や強制労働を行いません。また、取引先等がこれらを行っていることが判明した場合は是正を求め、是正されない場合は取引を行いません。

3. 私たちは、人権を尊重すると共に擁護することを基本精神とします。人権侵害の行為は、同じ職場で働く人々の意欲を阻害し、職場秩序を乱し、職場環境を悪化させるものと認識し、いかなる理由をもってしても、これを見過ごすことなく、理解しあえる健全な職場環境作りに取り組みます。

4. さらに、私たちはより良い職場とするために、次のような点に留意して行動します。

(1) チームワークと職務遂行

私たちは一人ひとりの専門性を結集し、チームワークを大切にして、社会に有用な製品、サービスを提供します。

(2) 自由闊達な職場

私たちは、上司や先輩に臆することなく、何でも自由に話し合える自由闊達な気風に満ちた職場を築きます。

SA8000 取得

2018年2月、プラスベトナムのビエンホア工場とナンチャク工場が、国際的な労働市場での基本的な労働者の人権の保護に関する規範を定めた規格である、SA8000 (Social Accountability 8000)※を取得しました。

国際人権宣言、ILO 条約、その他の国際的な人権・労働に関する国際法規の順守という社会的責任の実証はもちろん、労働環境や生産性の向上、そしてお客様や働く仲間などのステークホルダーとの信頼関係の一層の強化に繋げていきます。

※ SA8000 とは、米国の NGO である SAI (Social Accountability International) が公表している、国際人権宣言、ILO 条約、その他の国際的な人権・労働に関する国家法規に基づいた、すべての従業員の権利の行使及び従業員の保護のための国際規格です。





人財交流制度・人財育成

一緒に働く仲間がいきいきと働き、能力が最大限発揮できる職場の実現を目指し、人事制度や教育制度を充実させています。

人財交流制度 公募・FA 制度

プラスの「人財交流制度」には、「公募制度」と「FA 制度」との2つがあります。

「公募制度」は、新規事業や人員を要するカンパニーが募集広告を出し、社員が応募できる制度で、1995年に導入しました。その後、2003年に社員の能力開発・キャリアアップのためにも「自ら手を挙げる機会を作り出そう」との発想の

もと、年に一度立候補（FA 宣言）する機会が与えられ、それを見たカンパニーがスカウトするという「FA 制度」が追加されました。どちらも、仕事内容や処遇の不満を解消する手段としてだけでなく、自分を成長させるチャンスを掴む方法としても活用されています。

人財の育成

プラスでは、新入社員研修から中堅社員研修、管理職研修まで、それぞれの階層や育成段階に応じた体系的な社員研修を継続的に実施しています。

新入社員研修では、4月1日から約一か月間、グループの理念や歴史・諸制度・ビジネスモデルなどを理解し、ビジネスに必要なマナー・プレゼンテーション・ITなどの基本スキルやCSR・コンプライアンス・情報セキュリティなどの基本知

識習得、管理職研修では、管理職の役割と使命を理解し、周囲を動かしていくための基本エンジン（特に考える力）を鍛え、部下の目標を明確にし、具体的な行動へ導くポイントについて研修を行っています。



研修施設 音羽倶楽部

音羽倶楽部は、プラスランド内にある研修施設です。研修・セミナー等での利用はもちろんのこと、社員同士、または社員とお客様のコミュニケーションづくりのための場所としても利用



音羽倶楽部

されています。研修ゾーンでは、スクール形式の70名での研修、2分割して30名での研修が可能な大研修室、ディスカッションやグループワークに最適な小研修室、図書コーナー、OAコーナー、リフレッシュエリアを設けたリソースセンターなど、プラスが考える快適環境のためのソフトテクノロジー

を反映した空間をつくりあげています。また、宿泊ゾーンには心身ともにリラックスできるゲストルーム、くつろぎ語り合えるラウンジやコモンスペースがあり、機能性とアメニティを体感することができます。

宿泊室



中研修室



社員教育プログラム「WANNA BE（ワナビー）」

2010年より、社員の学びの支援プログラム「WANNA BE（ワナビー）」を開始しています。

「WANNA BE」という名前には、当社がグローバルで存在感ある企業へと大きく成長していくことと、仕事を通じて社員が自己を成長させ、人生そのものを楽しむことの二つの想いが込められており、「こうありたい！（WANNA BE）」という社員の願いを会社が学習面で支援するプログラムです。

外部機関と提携し、会社の補助金のもと社員が低コストで講座を受講することができ、特にグローバル化を推し進めていく中で、語学力の向上を希望する社員をサポートするため、英会話力、中国語会話力を磨く講座を提供、また、MBA科目を学べる講座や実務スキルが学べる通信教育プログラムも

追加し、講座の充実を図っています。

2015年7月からは「WANNA BE」で提供している講座以外で学びたいと思う講座を、社員が自分で探し、会社が受講をサポートする「MY Program」をスタートしています。

英語・中国語以外の語学はもちろんのこと、ロジカルシンキングやファシリテーション、キャリアカウンセリング、メンタルヘルス、ファイナンシャルプランナー、パソコンやデザイン関連など、「キャリア」に関するスキル、資格の講座について学びをサポートしています。

これからも「こうありたい！（WANNA BE）」という社員の願いを支援する学びのプログラムの充実に向けていきます。



ワーク・ライフ・バランス

より良いワーク・ライフ・バランス・プランの実現に向けて、育児や介護を支援する制度の充実を図っています。

ワーク・ライフ・バランスの推進

プラスは、ゆとりのある生活の実現に向けて、フレックスタイム制度や裁量労働制に加え、育児休職・休暇・短時間勤務制度をいち早く導入し、のちに介護に関する制度も追加され、育児・介護をしながら仕事ができる、または安心して育児・介護に専念できる環境を構築してきました。

「プライベートが充実してこそ、仕事で能力を100%発揮できる」

プラスは、さまざまな場面でより良いワーク・ライフ・バランス・プランの実現に努力していきます。

男性社員による育児休職取得

プラスグループでは、2008年より男性社員も育児休職を取得しており、女性だけでなく男性社員にも子育てしやすい環境づくりに取り組んでいます。

2018年度は9名※(女性9名)が育児休業を取得しました。

※2018年度(2018年1月1日～12月31日)に育児休業開始となった社員数

育児休職取得者の声(育児休職の取得を考えているみなさんへ)



ステーションリーカンパニー
ビジョン事業部
マーケティング部
島山 勝信
育休取得期間
2013年3月～4月(1か月)

子育ては長く続く大変なことなので、夫婦で協力して行わなければいけません。協力という部分についても、育休を取ればしっかり話し合う時間ができると思いますので、ぜひ取得されたいと思います。



コーポレート本部
経営企画部門
中川 萌
育休取得期間
2016年12月
～2017年1月(1か月半)

「迷うな。取りたいなら、取れ！」です。仕事上厳しいと考える気持ちはわかりますが、「制度」としてあるのだから、なんとかなるはず。育休を取りたいと思うなら迷わず取っていいと思います。



ファニチャーカンパニー
PDGS 推進室
鶴名山 裕貴
育休取得期間
2016年3月～9月(6か月)

育休を取得するかどうか迷うのであればぜひ取得してほしいと思います。これは子どものためでもありますし、パートナーである妻のためでもあります。そしてそれは女性が輝ける社会にも繋がってくるはず。プラスは育休取得に関して土壌が整っているので、あとは本人次第だと思います。



ステーションリーカンパニー
ビジョン事業部 技術部
ソフト設計課
松村 晃男
育休取得期間
2009年12月～8月(3か月)

育児はもちろん、育休を取ること自体どうしていいかわからないことがたくさんあると思うので、まずは相談してみるといいと思います。「家族の代わりは誰にもできない」と割り切って自分だけができることをやってみてもいいと思います。がんばってください。

子育て支援

プラスグループでは、社員が仕事と家庭を両立して働き続けやすい環境づくりに取り組んでいます。特に子育て支援については、勤務時間面での配慮と経済的な支援を柱に支援策を拡充し、その浸透に努めています。

2011年より、子育て支援の見直しが実施され、出産祝い金

の増額、学費融資支援制度の新設、2014年は育児短時間勤務の対象期間が延長されました。

さらに2015年には子育てをしながら働く社員を応援するため、中学生までのお子さんを対象とした「子育て支援手当」を支給する制度を新設しました。

在宅勤務制度

育児、介護、私傷病※による定期的な通院療養等の事由をもつ社員を対象に月に4回の在宅勤務を認める制度です。

※ 私傷病とは、業務外での怪我や病気を指します。

退職者再雇用制度

育児、介護、配偶者の転勤等のやむを得ない事情や転職、進学等キャリアアップを目指して退職した社員を対象にした再雇用制度です。過去の経験や退職後に培われた新しい視点・

スキル・人脈・経験を活かし、再びプラスで活躍していただきます。

波の会

「波の会」とは、プラスグループ全カンパニーの社員によって組織されている社員会です。本会は社員自らが運営するコミュニティラウンジとして、会員同士の親睦と相互扶助を図ることを目的とし、コミュニティサイト「namino kai」の

運営や様々なイベント活動を行なっています。スポーツや親睦活動などを目的として設立された「同好会」には補助金を支給しており、現在、野球、テニス、ランニングなど、19の会が活動しています。

70周年記念パーティ

会社創立70周年を迎えた2018年2月16日、波の会主催の「創立70周年記念パーティ」が開催されました。

プラスグループの社員・家族780名が参加、入社1年目・2年目の若手社員によるアトラクションや、全世界の社員をダンスでつないだ記念動画の上映、お楽しみ抽選会などで楽しみました。





安全と健康

一緒に働く仲間にとって、安全で健康な労働環境の形成に取り組んでいます。

安全と健康に関する推進体制

プラスグループでは、「安全衛生管理規程」を制定し、全ての従業員にとって安全で健康な労働環境の形成に取り組んでいます。プラスにおいては、安全衛生の方針、教育訓練、災害予防、健康管理、社員からの提案などを調査・審議するための「安全衛生委員会」を本社ならびに各カンパニーに設置し、定期的に開催しています。



防災への取り組み

プラスグループでは、災害発生時に組織的かつ迅速に行動し、できる限りの減災に努めて生命の保全を図れるよう、各オフィスにおいて防災訓練を行っています。

また、1次災害を最小限にとどめること、2次災害を阻止することを確実に実施するため、「プラスグループ防災指針」を定め、災害時、社員が取るべき具体的な行動について「プラスグループ防災マニュアル」を策定し、周知しています。地震等の災害時における、グループ社員やお客様、近隣の方々の人命救助ツール「チームレスキュー」を各オフィスに設置、虎ノ門本社・市ヶ谷オフィスにはAED（自動体外式除細動器）

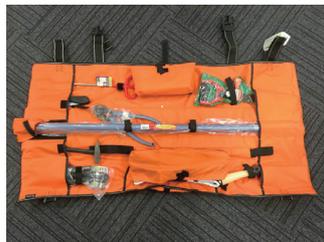
を設置しています。社員一人ひとりには、防災セットを配布しています。また、グループ社員やご家族の安全を速やかに確認するための「安否確認システム」には、全社員を登録し、隔月で応答訓練を実施しています。

「プラスグループ防災指針」

1. プラスグループ共同で、プラスグループで働く全員とその家族の生命・身体の安全確保に努めます。
2. 会社財産の保全および営業・生産活動の早期再開に努めます。
3. 自治体や地域社会と連携し、復旧に向けた社会貢献に努めます。



備蓄品倉庫



チームレスキュー



防災訓練の様子
(左から AED、地震シミュレーション)

メンタルヘルスの取り組み

プラスグループでは、従業員一人ひとりがいきいきと働ける職場の提供を目指し、メンタルヘルスの基礎知識の普及のため、マネジメント職を中心とした研修の実施など、一緒に働く仲間の心の健康管理に取り組んでいます。

プラスでは、社外にカウンセラーを配置しており、本人や職場から寄せられる様々な相談に適切に対応できる体制を構築しています。万が一休職に至った場合には、復帰・復職のための段階的な支援策の立案と実行につき、産業医をはじめとする専門家と職場・人事部門が連携し、本人および家族との連絡を密にするなど、きめ細かい対策を行っています。

また、年1回全社員に外部提携先より提供の「ストレスチェック」を受けてもらい、今の自分のメンタル状態を客観的な指標で確認できる機会を設けています。

社員がメンタル系も含めた病気やケガによって働けなくなった場合の、家族の経済的な負担は大きな問題と認識しています。特に、健康保険等の軽減措置期間が終了した後は、深刻な事態が想定されます。それをカバーするため、プラスでは「団体長期障害所得補償保険（GLTD）」に加入しています。今後も、できる限り福利厚生制度の充実を図る予定です。



ハラスメントの防止

職場におけるセクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止を図り、快適に働くことができる職場環境の実現を目指しています。

セクシャルハラスメント・パワーハラスメントの防止

プラスでは、職場におけるセクシャルハラスメントおよびパワーハラスメントの防止を図り、個人として尊重され、相互に対等な関係で快適に働くことができる職場環境の実現を目的とした「セクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメント防止規程」を定めています。

社員一人ひとりに本規程の周知徹底を図るとともに、管理職を対象とした社内研修にて過去にグループ内において発生してしまった事例や外部講師によるセクハラ・パワハラ対策の講習を行い、再発防止に努めています。

また、セクハラ・パワハラや違法行為など個人や会社の不正をできるだけ早く発見・是正し、より良い会社にしていくために「外部通報」（当社顧問弁護士へ通報）と「内部通報」（コンプライアンス委員会 事務局長へ通報）の2つの通報窓口を設けています。



